**№47　テーマ『この命を何の為に使うか』**

**講話日2007年10月22日**

**司会：では、本日は「この命を何の為に使うか」というテーマをもちましてご講演いただきます。それでは、芳村思風先生、よろしくお願いいたします。**

**芳村：はい。皆さん、こんにちは。**

**一同：こんにちは。**

**芳村：今日もお仕事で大変な中をお越しいただいてありがとうございます。まあ、今日のテーマは「この命を何の為に使うか」。まあ、これは人生哲学の根本問題といってですね、本当にこの人生を命を燃やして、生きがいを感じて生きていくというですね、まあ、そういうこの生き方を望むならば、常にこの命をなんのために使うかという問題意識を持ちながら、人生というものを、まあ、考えなければならない人生に対応していかなければならないということで、この命をなんのために使うかということは、これは人生哲学の根本問題、人生哲学の根本命題といってですね、命題というのは、命という字と、それからこの問題の題というね、字を書いて命題というんですけど、この命をなんのために使うかということは人生哲学の根本命題である。すなわち、命の課題だっちゅうことですね。非常に重要なこの人生の課題というふうに、まあ、言うことができます。**

**で、まずですね、なんでこの命をなんのために使うかという、この問題に答えを与えようというですね、そういうふうな意識を持って人生を生きなければ、価値ある素晴らしい人生というものをわれわれは生きることができないのか。なぜこの問題が大事なのかという理由をですね、まずお話をしたいと思います。で、その理由は全部で４つありましてですね、この１、２、３、４と書いていただいてるのが、この命をなんのために使うかということが、なぜ人生において大事なのかということの、まあ、根拠というものをですね、この考える。まあ、そういうこの条項であります。まずですね、なぜわれわれは、この命をなんのために使うかということを考えながら生きなければならないのか。第１番目は、このいったい人間はなんのために生まれてきたのか。俺はなんのためにこの時代に生まれてきたのか。俺はなんのために生まれてきたのかということを考えるとですね、全人類に共通する人間が生まれてくる理由というのは１つしかない。それは歴史をつくるためである。新しい時代を呼び起こすために、われわれは生まれてきたんだというふうにですね、言うことができるわけですね。**

**これはなんでかというとですね、なぜわれわれは歴史をつくるための生まれてきたというふうに言わなければならないのか。それは、この自分が生まれてくるということは、お父さんとお母さんの遺伝子をもらって生まれてくる。すなわち、自分は過去の人間の２人分の遺伝子をもらって生まれてくるんだ。だから、人間は誰でも生まれながらに親を越えて産まれてくるというですね、まあ、そういうふうに言うことができます。すなわち、過去の人間の２人分の可能性を一身に受けて生まれてくるんだ。だけどもですね、お父さんからもらった遺伝子と、お母さんからもらった遺伝子を足しただけではですね、われわれは過去を越えることはできません。なぜわれわれは、過去を越えて新しい時代をつくるという、より素晴らしい時代をつくるという力を持っておると言えるのか。それはこの命は有機体ですから、お父さんからもらった遺伝子とお母さんからもらった遺伝子が自分の命の中で有機的に絡み合って、その相乗効果として出てくる力がですね、自分の命のあり方であり、また自分の能力なんですね。で、このお父さんからもらった遺伝子とお母さんからもらった遺伝子が有機的に絡み合って、その相乗効果として湧いてくるものが自分の力ですから、だから、自分の力というものは過去にはなかった、まったく新しい力だ。だから、われわれは、まったく新しい時代をつくり、まったく新しい文明、文化をつくり出すことができる。まあ、そういうこの力を持ってるわけですね。**

**ですから、現実を見てもわかるようにですね、30年前になかった携帯電話が、現在、存在しますし、また昔はなかったものがいっぱい、どんどん、どんどんですね、このつくり出されている。それがこの生まれてくる人間が過去の人間を越えるですね、そのまったく新しい能力というものを自分の命から湧き出させることができるということの、まあ、証明なんですね。どんどん、どんどんですね、機械も発展するし、どんどん、どんどん、この組織も発展する。人間の能力も昔の人と比べたら随分とすね、この進化しております。まあ、そういうことを考えるとですね、とにかく人間が生まれてくるのは、歴史をつくるためだ。だから、昔からですね、大人たちは若者たちに対してですね、なんかその今の若い者は頼りにならんといってですね、若い人たちをばかにするようなことを言う大人がいつもおるんですけど、だけども、その大人たちから頼りにならんというふうに言われておった若者たちが、20年、30年たてば、あっという間にですね、大人たちが全然知らない未来をつくり出して、そして、この歴史というものを前進させていく。これがこれまでわれわれが体験してきた歴史の事実であります。**

**で、なんでそういうことをですね、過去の人間ができなかったことを新しく生まれてきた人間たちはどんどんやっていくことができるのか。そこに今、申し上げた遺伝子のこの構造というか、秘密があるわけであります。生まれてくる人間は、過去の人間の２人分の可能性を持って生まれてくる。だけども、人間は有機体である。命は有機体である。だから、お父さんからもらった遺伝子と、お母さんからもらった遺伝子は足し算じゃない。掛け算で、相乗効果としてですね、この湧いてくる力がその子の力だ。だから、その子は過去の人間が誰もやったことがないことができるというですね、そういう力を持ってこの生まれてくるというふうにですね、言うことができる。まあ、そういうことを考えたならばですね、じゃあ、俺は何をしてこの新しい時代をつくろうかということを考えなければならないし、また生まれてきた以上はですね、俺は過去の人間が誰もやったことがないことをやって生きて死んでいく。まあ、そういうふうなですね、思いを持って自分の人生というものを考えなければなりません。で、そういうところからですね、いったい俺はこの命をなんのために使うか。この命はなんのために使って、どういう仕事をして、どういうことをして、そして、新しい時代をつくり出そうか。そういう思いに燃えなければならない。まあ、そういうこのことがわかってくるわけですね。まあ、これは非常に大事なですね、この人生というものを考える場合の基本原理です。人間は生まれながらに親を越えて産まれてくる。親の世代の人が誰もできなかったことを新しく生まれ出てくる子どもたちはできる可能性を与えられて出てきてるんだ。そのことを考えるならばですね、いったい俺は何をして歴史をつくろうか。なんにためにこの命を使おうか。まあ、そういうことをですね、考えなければならないという、そういう必然性が生まれてきます。**

**それから、第２番目のこのなぜ、この命をなんのために使うかということを考えなきゃならんか、理由です。第２番目は、人間と動物の生き方の違い。これはですね、人間以外の動植物というのは、与えられた現実にどう適用し、どう対応するかというですね、そういう生き方しかできない。だけども、人間は、与えられた現実をどう変えていくかという生き方をするところにですね、人間にしかできないこの独自の生き方がある。これは、この人間以外の動植物というのはですね、この遺伝子と本能の支配のもとでしか生きられない。すなわち、決められたことしかできないというね、まあ、そういうふうなこの本能に縛られた、そういうこの生き方をするのが人間以外の動植物であります。だけど、人間の命はですね、遺伝子の支配を越えて、本能の支配を越えて、一方的に遺伝子や本能に支配されないで、この自由という領域を獲得した命という、そういう次元にあるわけですね。で、確かに人間も本能を持っておりますけど、だけど、本能に一方的に支配されるんじゃなくってですね、その本能というものをコントロールしたり、本能を支配したり、あるいは本能をどういうふうに実現するかということにおいてですね、この他の動植物とは違ういろんな人間的な次元の、まあ、実現の仕方、生かし方、使い方、本能の使い方というものをですね、いろいろ考えて、そして、動植物とは違う生き方というものを人類はつくり出しておるわけであります。**

**そういうことを考えたならばですね、この人間以外の動植物は、本能という遺伝子に縛られた命であるけれども、人間はこの本能と遺伝子の支配を越えて自由という領域を獲得した命である。そこからどういう生き方の違いが出てくるのかといったら、人間以外の動植物は、遺伝子と本能の支配のもとでしか生きられない。だけど、この人間は遺伝子と本能の支配を越えて、決められたとおりのことをするんじゃなくって、この現実をよりよい方向性に変えていくというですね、そういう生き方をすることができる。まあ、そのことによって、人間は歴史をつくり、文化、文明をつくり出すという、まあ、そういう仕事がですね、これまでやってこれたわけであります。であるが故に、この人間らしい生き方ということをしようと思ったならばですね、何かしら、現実を変えていくということにわれわれは関わらなければならない。現実の自分のやってる仕事をよりこの効率よく出てくる仕事にしても、何かしら今の自分のやってることを改良、改革、改善していく。まあ、そういうことがですね、この人間的な生き方であって、犬なんかはですね、与えられた犬小屋に住むしかないんですけど、もっといい犬小屋に住みたいなんていうようなことを言う犬はいないんですけどね。だけど、人間はその生まれた家で育ってもですね、もっとこの家より、もっとすごい、素晴らしい家に住みたいといってですね、そして、その今、自分が与えられた家より、もっとこの素晴らしい、まあ、魅力的なね、その家を求めていくという、そういう活動をする。そこに人間のですね、この人間らしい生き方というものがこう出てくるわけですね。**

**まあ、とにかくそういうことで、この人間というのは、与えられた現実をどう変えていくか。しかも、悪い方向に変えていくんじゃなくって、与えられた現実をどうよりよい方向に変えていくか。そういう生き方をするところにですね、人間のこの人間らしい生き方の基本がある。だから、どんどん、どんどんですね、われわれがこの庶民に提供する建築のあり方もですね、時々刻々、年々、年々、より素晴らしい建築のあり方に変えていくという、そういうことをして、建築の魅力というものをですね、消費者に、まあ、伝えていく、わかってもらう。そして、より素晴らしい家に住み替えていくというふうなね、そういうこのより幸せを求めていく。そのために、より素晴らしい家に住みたい、住み替えたい。まあ、そういう欲求をですね、この消費者に与えていかなければならない。これもやっぱり、企業側からのですね、よりよい未来というものを提示しながら、人間らしい生き方を消費者に教えていく。また消費者を人間らしい生き方に導いていく。そういうこの活動になっていくわけであります。まあ、とにかくは、人間というのは、その遺伝子と本能の支配を越えてよりよいものを求めていく。現実をよりよいものにしていく。まあ、そこにですね、この人間らしい生き方というものの、まあ、重要な原理の１つがあると。そういうところからもですね、この与えられた現実をより素晴らしいものにしていこうと思ったら、この何かしら未来に理想というものを掲げなきゃなりませんので、その意味で、この命をなんのために使うか。現実をよりよいものにしていこうと思ったら、どういうことをしたらよいのかというね、命の使いどころというものを自分が求めていくという意識にならないといけません。次は第３番目です。第３番目は、これは目的や理想がなければ流される。残念ながら、多くの方々がですね、何がしたいのと言われても、いや、べつに大して、特にしたいことはありませんといってですね、この言ってしまう方が案外、今の時代、多い。だけども、したいことがないということになればですね、その人は他人に与えられたことをさせられてしまうか、あるいは、まあ、適当にやっておったらなんとかなるんじゃないのといってですね、現実のこの社会の動きにのみ込まれてしまって、現実に流されて、自分を見失いというですね、そういうことになってしまう。人間が自分を見失わないで、自分の人生を生きようと思ったならばですね、明確にこの目的、理想というものを自分の人生の未来に掲げて、そして、自分が目的とするものに現実を近づけていくというふうな、そういう生き方をしないと、この自分の人生というものはつくれないわけですね。**

**すなわち、欲求のない人間は自分のない人間である。何もしたいことがないということは自分がないんだ。だから、他人に与えられたことをさせられるしかないんだ。また理想のない人間は自分の人生を生きられない。そういう意味で理想、目的がなかったならばですね、流されてしまう。自分を見失ってしまう。だから、その人は生きておっても、自分の人生ではない。現実に流されてしまって、自分自身が将来どうなるのかわからないというね、そういうことで結果としては適当にやっておったら、まあ、なんとかやっていけるんじゃないのという、そういうふうなこの流されるですね、生き方になってしまう。それは実は、自分を見失った人生だ。それは自分の人生ではない。その意味で人間が本当にこう人間らしいね、この命が燃える、生きがいのある人生というものを生きていこうと思ったら、やっぱりこの目的、理想というものを自分の人生、未来に掲げながら、現実を理想に近づけていくというふうな、そういう生き方をしなければならない。そういうことになってくれば、どういう理想のために俺の命を使うかというね、そういうことが、まあ、意識に上ってくるというか、課題になってくる。まあ、そういうふうにして、この命をなんのために使うか。この命の使いどころを何に定めるか。そういうことがですね、人生の課題になってくるわけであります。**

**それから、第４番目ですね。この永遠の生命と個体的生命との関係性。こういうところからもですね、この命をなんのために使うかということを考えなきゃならないという、まあ、そういうこの必要性というかね、要求が出てくるわけであります。で、この個体的生命というのはどういうことなのかといったら、今、われわれがですね、この時代を生きておって、おいくつですかと言われたら、まあ、だいたい何十歳ですと答えるんですよね。だけど、何十歳ですと答えるその年齢は、自分自身のこの個体的生命の年齢であって、この自分の命であるこの個体的生命の中に息づいておる生命そのものというものはですね、もうこの地球上ですでに38億年間もずっと生き続けてきた命である。この地球上で38億年間、生き続けてきた命しか、人間にまでは進化することができなかった。そういうことを考えるとですね、この自分の個体的生命は何十歳でも、自分のこの個体的生命の中で息づいておる命そのものは、もうすでに38億年というこの長い年月をですね、ずっと生き続けてきてるんだということを考えたならばですね、自分自身の生命年齢、生命年齢から言うならば、われわれはみんな38億歳ですと答えなければならない。まあ、それが命というもののですね、真実の年齢であります。**

**38億歳、どんな年やと。もうおじん、おばんどころの話じゃない。もう化石どころの話じゃない。本当にもうなんちゅうか、本中華、冷やし中華の世界でですね、もうなんと言いようもなく、とにかくはめちゃめちゃ古い。でも、それが命の実態なんですよ。われわれはもうすでに38億年間もこの地球上で生き続けてきたんですよ。で、その証拠にですね、心理学なんかでこの催眠術というね、催眠という方法を使うと、退行催眠ということができてね、で、われわれが恐竜だったころ、恐竜だったころ、どういう体験をしたのかということをですね、脳からその記憶を引き出して思い出させることができる。催眠術を使って、命の過去にさかのぼることができる。まあ、そういうこの催眠方法があるわけですね。これは退行催眠。退行というのは、退くという字とね、行くという字を書いて退行っちゅうんですけど、過去にさかのぼるね。そういう過去の記憶をたどって、この古い、もう何億年もの過去をですね、この記憶として呼び覚ますような、そういうこともできる。それはわれわれの命が、単につい何十年か前に生まれたもんじゃなくってですね、もう38億年間もこの地球上で生き続けてきてるという、この持続性が、まあ、そういうこの過去の記憶を呼び覚まして、恐竜時代、俺はどうだったのかっちゅうことをですね、まあ、思い出してしまうというのは、そういうこのことにもなる。それができるっちゅうことですね。**

**まあ、そういうことを考えると、本当にわれわれは、生命年齢は38億歳なんです。もう38億年間もこの地球上で生きてきたんですね。ということは、自分をこの世にですね、この時代にこの生まれさせるためにですね、この自分の命の祖先たちは、あらゆる戦いに38億年間のあいだ、あらゆる戦いに勝ち続け、あらゆる問題、苦難、悩みをですね、乗り越え続けてきてくれた。それが故に、今、俺はこの時代にここに生まれ出てくることができたんだ。もうそのことを考えるならばですね、自分の命の祖先たちは一回も戦いに負けることなく、一回も苦しみ、悩みに押しつぶされることなく、それを乗り越えてきてくれたから、俺はここに生まれ出てくることができた。そのことを考えたならば、その祖先たちの必死の努力にですね、恥じない。それに報いるような生き方を俺もせんと恥ずかしいなというですね、そういうふうな思いが湧いてくるはずであります。しかも、その命というものは、命をただ受け継いで、38億年間やってきただけじゃなくって、確実にそこには進化というですね、命の質がどんどん向上していくという、まあ、そういう歴史がある。すなわち、過去の自分の命の祖先たちが必死に頑張って生き抜いてきたが故に、命は進化するという道筋をたどってきたんだ。だから、俺もまたこの時代を生きて、永遠の生命である命を進化させるために、何かしら関わらなければならない。そういうふうなですね、この思いが湧いてきます。まあ、そういうところからわれわれは、せいぜい100年生きるこの個体的生命であるこの命を永遠の生命とどう関わらせようか。そういうふうなですね、この考えを持って、われわれは人生というものを生きなければならない。まあ、そういうことがこうわかってくるわけですね。**

**自分をこの時代に生まれさせるために、自分の命の祖先たちの命は、必死にあらゆる戦いを勝ち抜いてきてくれたんだ。だから、俺はここにおることができる。それだけでもですね、その祖先たちの必死の努力になんか報いなきゃ申し訳がない。それに祖先の努力に恥じない生き方を俺もせんとですね、この申し訳ない。そういうふうに、この思わなければならないという気持ちが、こういうことを考えると湧いてくるはずなんですよね。そういうところから、せいぜい100年生きるこの命をどう使おうかという、そういうこの思いがですね、そういう考えが湧いてきます。まあ、そういうですね、この人間がこの時代を生きるというですね、まあ、そういうことのために、このどういうことをわれわれはまず考えなければならないのか。その人生を生きる基本的な問題意識、それがこの命をなんのために使うか。この命の使いどころを何に定めるか。そういう問いを持ってわれわれは自分の命を輝かせて、自分の命を燃やして、本当に俺はこの時代に生まれてきてよかったというね、そういう実感、思いを持ってこの時代を生きて死んでいける。そういうこの生き方を、まあ、志さなければなりません。**

**で、なんでですね、この命の使いどころというものを定めていかなければならないのか。それは、あれもこれもやっておったんでは、なかなか高さが出ないというか、存在感が出てこない。人生は長いようで短い。だから、いろんなことをやっておったんでは、なかなかですね、専門家になれないというか、本当のこの自分の命の存在感というものをつくっていくことはできない。だから、あれもこれもやるんじゃなくって、そのある一つのことに命を集中的に使っていくというですね、そういうことをしないと、本当のその道の専門家、このことにかけては誰にも負けんぞというね、そういうふうな自分というものをつくっていくことはできません。その意味で、いろいろな仕事はしなきゃならんかもしれませんけど、その中でもですね、自分自身としては、俺はこのことの専門家になろう。このことでみんなの役に立とう。このことで会社の役に立とう。このことでこの消費者の役に立とう。何かしら、自分が本当にどんな人にでも役に立てるような、そういうこの誰からもさすがと言ってもらえるような、そういう力をですね、自分がつくっていかないと、本当の素晴らしい人生、他人にばかにされない人生、他人から一目置かれてですね、そして、その楽しい人生を生きていくという、そういう生き方をわれわれはつくっていくことができません。**

**人生のつくり方というものをですね、よく考えてみてもらいたいと思うんですよ。とにかく、あれもこれもやっとったんじゃ、なかなか高さが出ない。何か一つに集中すればね、あっという間にね、この群を抜いた高さというものをわれわれは獲得することができます。そういうふうにして、何かしら他人から一目置かれるものというものをね、早く何かしらつくってしまわないと、人生はさみしいですよ。とにかくほかのことは駄目でも、これに掛けてはあいつはすごいやつやとこう言われて、初めてね、会社の中でも存在感が出てくるわけであります。そういう意味で、その会社に入れば、いろんなことをしなきゃならんと思いますけども、だけど、俺は何をもってこの会社で輝こうか。何を俺の専門としようか。それをやっぱり、自分自身が独自に決めて、自分で決めてですね、その能力をこのつくっていって、他人から一目置かれる、他人から尊敬される、他人から重宝される、そういうふうな自分というものをつくっていく。それが楽しい、愉快な、幸せな人生を生きていくための非常に大事な課題であります。何一つ、何を取ってもですね、まあ、どっこいどっこいで目立たないという、そういう状況ではね、本当に個性の時代というのはさみしいですよ。個性の時代を生きるんだから、俺が個性を持って輝ける何かをつくっていこうというね、そういうことを考える必要があります。その意味で、この命の使いどころを何に定めるか。この命をなんのために使うか。そういう課題を常に持ちながら、人生、自分の人生というものをつくっていかなければなりません。**

**で、この具体的にですね、人生を生きるということは、どういうこの生き方をすることなのかですね、これをこの、まあ、人生を生きる目的というものを何にこの定めればですね、われわれは幸せな人生というものを生きることができるのか。まあ、そのことを次に考えていきたいと思うんですけど、この今、私が話しておるのは哲学なんですよね。で、哲学というのは、なんのために人類がつくったのか。これはどうしたらもっと幸せになれるかというね、そういうこの命から湧いてくる欲求というものを実現するために哲学が生まれました。哲学をこの学び、哲学をしなければならない。哲学的に考えることをしなければならないのは、幸せになるためなんですよ。どうしたらもっと幸せになれるのか。そのことをですね、このいろんな人が、いろんなことを考えてですね、今日まで学問として発展させてきたものが哲学というものの学問の意味であり、また存在価値であります。科学は事実を知ろうとするね、そういう学問ですけど、哲学はもっと幸せになりたいというね、そういう幸せになるための道を、方法を考えるのが哲学であります。そういう本当に幸せな人生というものをですね、われわれが手に入れたいと思ったならば、人間の生き方として何が大事なのか。それを考えるのがですね、人生の目的というものを何に定めたらよいのかという、まあ、そういうこの、まあ、テーマというか、問題となって出てくるわけであります。で、人生の目的、人生の課題、何を目的にすれば、われわれは幸せになるのかということをですね、本当にこの学問的に考えていこうと思ったならば、人生の目的というものを考える以前にですね、生命の目的とはなんなのかというところから考えていかないと、人間という生命、人間という命のこの目的、人間という命が幸せになる、この原理というのは見えてきません。まず人生ということを考えるためには、生命という次元から考えていかなければならない。そうなるとどうなるかといったらですね、まあ、これも中学の生物学の教科書に出てくる話ですけども、命には目的がある。あらゆる生命は、何を目的にして生きておるのかっちゅったらですね、これはもう諸君、皆さん方も学校で習われたことですけど、あらゆる生命は、自己保存と種族保存ということを目的にして生きておるんだ。これ、人間をも含めたあらゆる生命の、生命全体に関わる目的というのはですね、自己保存と種族保存である。これが生命の目的なんだと。この自己保存というのはですね、ただ自分の命を永らえさせたらいいので、他人の命なんか関係ないわ。他人を殺しても、俺が生きていったらいいんやというね、そういうふうな利己的なこの問題ではない。**

**自己保存というのはですね、自己保存の自己とはなんなのか。自己保存の自己というのは、先ほど申し上げたように、このわれわれの個体的生命の中には、永遠の生命であるこの38億年間、ずっと生き続けてきた命が存在する。そして、このせいぜい100年生きるこのわれわれの命は命の仮の姿だ。命の本体は永遠の生命だ。だから、われわれがこの学校で習った自己保存という生命、目的である自己とは、永遠の生命のことなんですよ。永遠の生命を永遠の生命として保存する、ずっと生き永らえさせるためにですね、この生きるというのがですね、あらゆる個体的生命の目的というふうにこう言うことができるものであって、それがためにね、あらゆる生命は例え自分の命を犠牲にしても、永遠の生命をずっとこう永らえさせる、続かせるためにですね、努力するというようなことをしてるわけで、これは、まあ、昆虫なんかの世界でもですね、このハチはハチとしてのその命をですね、永らえ、ずっとこう長く生きさせるためにですね、この自分の命を犠牲にして、そして、その自分たちの永遠の生命をこう永らえさせようというような、そういうことをね、考えたりする。**

**で、また、サバンナなんかでですね、ライオンにカモシカの群れが追い掛けられるとですね、最初はこのカモシカの群れは、群れ全体で逃げていくんですけども、だけど、やがて必ず途中でね、その群れの中から１頭が、その群れから外れて、そして、その群れが全体として逃げていく方向とは全然違う方向へ１頭が逃げ始める。しかも、わざとですね、群れ全体が逃げるスピードよりはゆっくりとしたスピードで違う方向に自分が逃げて、そして、自分の命をライオンに食わせることによって、群れ全体を守ろうとするようなね、まあ、そういう行動を動物たちは取るわけであります。これがいわゆる自己保存というですね、自分の命を永らえさせるんじゃなくって、永遠の生命をこの維持するというかね、永遠の生命をこの守るためにですね、自分の命を犠牲にするというふうな、そういうこのことも動物の世界ではやっておるわけであります。そのことを考えたならばですね、この自己保存の欲求という、この命の目的というのは、実は自分の命を永らえさせるということじゃなくって、永遠の生命をこの存在させるために、自分が何か仕事をする、関わる。それが自己保存というですね、まあ、そういうこの生き方になってくるわけであります。まあ、そういうこの自己保存というですね、そういうこの生き方もあらゆる命が命の目的として持っておるものであるし、また種族保存というのがあって、まあ、種族保存というのは、これは雄と雌に分かれて、この命を合体させることによって子孫を残すという、そういう活動がこの種族保存の欲求というですね、そういうこの種を残していくという、まあ、そういうふうな活動になるわけですね。とにかくは、生命の目的というのは、自己保存と種族保存という、この２つしか生命の目的はない。で、これは、まあ、生物学の話なんで、それをですね、哲学的に理解するとどうなるかということなんですよ。哲学的に理解するとどうなるかといったらですね、生命には目的があるということはどういうことなのかといったら、生命はただ生きておるのではない。命というのは、ただ生きてるんじゃない。命は目的を実現するために生きるという生き方をしておるのが、命のこの現実的な姿なんだ。すなわち、命というものは、そのうちにあらゆる命はその内部に目的をはらんでおるのであって、目的のない命は存在しない。何かのために生きるというあり方で命は存在するのであって、なんのためにも生きるのではない。ただ生きてるという命は、もう命としては存在し得ない。それがですね、命の現実であります。だから、単細胞生物でもですね、単細胞生物でも、常に自分が生きるために必要なこのエネルギー源をですね、常に探し求めて、そういう活動をしながら生きるということをしておりますので、常に命には目的があるんですよ。**

**で、このことをですね、哲学的に理解するとどうなるかといったら、命には、命よりも大事なものがある。命は命が一番大事やないんだ。命には、命よりも大事なものがある。自分のこの個体的生命ということからするならばね、自分の命よりも大事なものがあるんだ。それが１つは、永遠の生命であるし、またその１つが種というね、子孫を残すという、種というものを維持するという、そのことがですね、命よりも大事な目的で、生物学的にはあります。だから、それを人間の人生に置き換えたらどうなるかといったら、命には命より大事なものがあるんだ。命が一番大事だと思ったらいかんっちゅうことですね。命には命よりも大事なものがある。なんでそんなことが言えるのかといったらですね、命というのは、生きたい、生きたいと思ってるものが命なんですけど、生きたい、生きたいと思ってる命が一番輝くとき、一番喜ぶとき、それは生きたい、生きたいと思ってる命が、このためになら、俺は死んでもいい。このためになら、俺は死ねる。そういうものと出合ったとき、命は最も激しくも美しく燃え上がる。命が一番生かされるとき、それがですね、生きたい、生きたいと思ってる命が一番生かされるとき。それがその命が死んでもいいと思えるものを持ったとき、命が最も輝くんですよ。ここにですね、命には、命より大事なものがあるという、そういうこのことを証明するですね、根拠がそこにあるわけですね。**

**命が一番大事じゃない。命が一番大事だと思ったら、命が燃えるような、命が輝くような、素晴らしい人生がなくなってしまうんですよ。命が一番大事だと思ったらね、これをしたら病気になるからやめておこうとか、これをしたらけがをするかもしらんからやめておこうとか、これをしたら死んじゃうかもしらんからやめておこうとかっちゅうことになってしまって、ついつい命が一番大事だという生き方からはね、勇気のある、素晴らしい、感動的な生き方は生まれてきません。だけど、残念ながら、今の人たちは、命以上に大事なものはないと思ってしまって、命が一番大事なんだと思ってしまってるのでね、ほとんどの人が感動のある人生を忘れてしまっておる。本当に命が燃えるということは、あまり体験できないというね、まあ、そういう状態になってしまっておる。そういう意味で、生命観と、生命観としてね、命が一番大事じゃないんだ。命には命より大事なものがあるんだ。それが命には目的があるということの哲学的意味である。そのことをまずですね、ちゃんとわかってもらいたいと思います。**

**だけど、その命よりも大事なものはあるんだけど、だからといって、健康を粗末にしたんでは活動ができませんからね。だから、健康は大事なんですよ。健康は大事なんだけど、だけど、命が一番大事だと思ったらいかん。ちょっとなんかこう納得できんような、矛盾を感じるかもしれませんけど、健康じゃないと、この命を使って何かをやるっちゅうことはできませんから、健康がないと、やっぱりですね、この何かに命を燃やして生きるということはできません。その意味で、健康は大事なんですけど、命が一番大事だと思ったらいかん。命には命より大事なものがあるんだ。実際問題、命には命よりも大事なものがあるという、その命より大事なものをつかんだら、健康になるんですよ。命よりも大事なものをつかんでいないと、命は完全燃焼しませんからね。だから、くすぶった命になってしまって、この生命力が燃えてこないで病気になりやすい。だけど、本当にこのために生きて、このために死ねたら本望だというね、そういう情熱を燃やして自分が打ち込めるものを持ったら、命は燃えますから、健康になります。そういうことのためにもね、自分が健康に生きるためにも、幸せに生きるためにもね、われわれはまず、この命をなんのために使うか。命が一番大事やないんだ。命の使いどころをつかむことが一番大事なんだ。そのために命を使ってるとき、俺は最高に燃えるんだ。一番命は輝くんだ。それが一番、最高に人間の美しい生き方なんだ。そのことをですね、われわれは知る必要があります。命が一番大事だというところからは、命が美しい生き方は生まれてきません。感動的な生き方は生まれてきません。命は燃えません。**

**そういうところで、まずはですね、その命には命よりも大事なものがある。その命より大事なものとはなんなのかっちゅったら、それがこの命の目的といえるものであって、それが生物学的に言ったら、自己保存と種族保存なんだっちゅうことですね。この自己保存と種の保存という生命の目的というものは、あらゆる生命に内在する、全生物に共通する命の目的と言えるんですけど、それを人間という命において考えたらどうなるかというところから、人生哲学に入るんですよ。まず人生ということを考える以前に、生命という次元から考えていかないと、人生を学問的に考えるという道筋が出てきません。生命という次元から考えないでですね、人生で何が一番大事なのか。そんなことを考えておっても、いろんなことが言えてしまってね、いろんなことが言えてしまって、その学問的なちゃんとした結論、答えというふうにならないんですね。そのために、人生の根底には命がある。その生命という次元から考えて、初めて人生は学問的に語ることができるものになるんですね。**

**まあ、そこで、その生命の目的は、自己保存と種族保存なんだけど、じゃあ、人間という命の目的はなんなのか。人間はいったい何を目的に生きたら幸せになり、成功し、健康に生きることができるのか。そのことを考えなければならない。で、人間も一個の命ですから、人間もやっぱり、自己保存と種族保存という生命の目的を命にはらんでるんですけども、だけど、人間という命においては、その自己保存と種族保存という生命の目的は人間的な表れ出方をする。そこでですね、じゃあ、自己保存の欲求、自己保存という生命の目的が、人間という命から出てきたらどうなるかといったらですね、この生命の目的というのは、生命の目的というのは、この自己保存も種族保存も、欲求としてこの命に存在するわけですよね。自己保存も種族保存も生命の目的というものは欲求として命に存在し、欲求として湧いてくるもんだ。で、これもやっぱりね、非常に大事なこの問題でね、この人間における人生の目的というものもですね、欲求としてこの人生の目的を持たないと、人間は幸せな素晴らしい人生を歩めないんですよ。うっかりすると、ほとんどの人は人生の目的とか理想を理性で考える。頭で考える。だから、人間はつらい、苦しい、堅苦しい、窮屈なね、嫌な人生を生きなければならないんです。**

**欲求として、自分の人生の目的を持ったとき、初めてこの幸せな、生きがいのある、素晴らしい人生が始まるんですね。人生の目的というのは、欲求として持たなければならない。理性でつくったらいかん。例え理性でつくっても、その理性でつくった目的、理想というものを欲求と結び付けないと、その欲求しないと、その理想は実現できません。欲求と結び付かない理性は、欲求と結び付かない理想は、人間を苦しめて、また欲求と結び付かなければ、理想を実現できませんのでね、絵に描いた餅になってしまいます。単に空想になってしまう。本当に理想としてですね、実現していこうと思ったら、欲求と理想を結び付けて、その理想を欲求しなければ、人間はその理想を実現できないですよ。なぜならば、命から欲求が湧いてこなければ、行動力が出てこないんですよ。欲求のない人間は行動しません。命から湧いてくるものがある限りにおいて、人間は行動しますけど、命から湧いてくるものがなくなってしまったら、人間は行動をやめるんですね。それでは理想は実現できません。理想というのは、欲求として持たなければならない。ついつい頭で理想を考えてしまう。頭で考えた理想は自分を苦しめる。命から欲求として湧いてくるものを自分がですね、このやっていけば、命は喜ぶし、命は燃えるし、そして、この生きがいを感じる。そういう意味で、この人生の目的、人生の理想というものもですね、欲求として持つということが非常に大事だということをですね、ここではよく理解しておく必要があります。**

**で、もう少しそれをね、具体的に考えていくとどうなるかといったらですね、実際問題、いろいろわれわれは会社の中でも業務で計画をつくったりします。で、理性でつくった計画を実現しようと思うと、そうすると、その計画を実行しようと思った瞬間にわれわれは計画に縛られて、堅苦しい、窮屈な、つらい、苦しい人生が始まる。だけども、欲求として理想や計画を持ったとき、われわれはその計画を実行することが喜びとなり、また情熱を持って、命を燃やしてその計画に関わることができる。だけど、欲求が大事だということだけを考えるとね、欲求だけでは野獣なんですよ。だけど、命から欲求が湧いてこないと、行動力は出てきませんから、欲求は大事なんですけど、だけど、欲求は大事だと言ってるだけでは、それは野獣の生き方になってしまう。わがままで身勝手な生き方になってしまう。だから、人間が人生を生きるために大事なのは、人間的な欲求、人間において価値がある欲求、人間的な欲求というものをどう自分の命から呼び覚ますかということがですね、非常に大事な課題になってきます。本当に人間が素晴らしい人生を生きるために必要な人間的な欲求というものをわれわれが持って、命を燃やして人生を生きていこうと思ったら、どういうことをしなきゃならんかといったらですね、自分の理性を手段能力に使って、自分の命に問いを発する。**

**どういう問いかっちゅったらですね、どんな人間になりたいのか。どんな仕事がしたいのか。将来、どんな生活がしたいのかということを自分に問うてですね、自分の命から、俺はこんな男になりたい。私はこんな女になりたい。俺はこんなお父さんになりたい。私はこんなお母さんになりたい。俺はこんな仕事がしてみたい。自分は将来、こんな生活がしたいんだ。本当にそういう欲求が湧いてきたならばね、本当にその欲求が湧いてきたなら、湧いてきた欲求こそ、まさに俺ですからね。それこそまさに俺で、欲求こそまさに俺なんだ。だから、その命から湧いてきたそういう欲求を実現することこそ、まさに自分の生きがいであり、自分の命の喜びになってくる。これが素晴らしい人生を生きる方法論なんですよ。人間的な欲求を命から呼び覚ます。人間なんだから、まずはどういう人間になりたいのかを決めなければならない。どういう人間になりたいのかを決めなければならない。男であったならば、どういう男になるかを決めなければならない。女であったら、どんな女になるか決めなければならない。決めなかったらどうなるかといったら、自分がどうなってしまうかわからないというね、そういう状態で、まあ、適当にやっておったら、なんとかなっちゃうんじゃないのというかたちになってしまって、結局、自分を見失って、流されるようなことになってしまう。**

**まずは本当に素晴らしい人生を生きようと思ったら、男は自分がいったいどういう男になりたいと思ってる男なのか。男探しをせんないかん。女性もやっぱり、自分がどういう女になりたいのかという、女探しをせんないかん。そうして自分のなりたいものを決めてですね、そして、そうなれるように頑張る。それが自分の人生をつくっていくという生き方なんですね。で、このようにしてわれわれは、人間的に価値ある欲求というものを持つことができる。本当にこんな男になりたいと思ったならばね、そういう男になれるように努力することが、自分の幸せ、自分の喜び、まさに命が燃える生き方になるわけですよ。命から欲求が湧いてこないと、命は燃えませんからね。理性では燃えられません。**

**だけど、往々にしてわれわれは目標を理性でつくってしまう。それは決して間違いじゃないんですけど、理性でつくった目標を本当に実現したいならば、理性でつくった数値目標やね、事業計画を本当に実現したいならば、それが欲求されなければならない。本当に命がそれを求めてるかということをですね、問わなければならない。命が本当にそれを求める。欲求と理想が結び付かなかったならば、その欲求は自分を苦しめるものになってしまうし、またその欲求はなかなか実現できないものになってしまう。自分にとって重石になってしまう。苦しい人生になってしまう。理想が欲求されたとき、初めてその理想は実現できる可能性が出てくる。まあ、それほどにですね、欲求というのは非常に人生にとって大事なこの原理なんですね。とにかくこの生命の目的も欲求として出てくるし、人間における人生の目的、理想というものも欲求として持たなければならない。本当にしたいのかということをね、自分に問わないと、その自分のすることが喜びにならないし、命が燃えるという、そういう状態になっていきません。まあ、とにかく欲求、この人生の目的というものも欲求として持たなければならない。理性で考えただけでは、それは自分を苦しめることになってしまうということもですね、よく考えてみてもらいたいと思います。**

**で、具体的に今度はですね、自己保存の欲求という生命の目的が、人間という命から湧いてきたらどうなるか。自己保存という生命の目的が、人間という命から湧いてきたらどうなるかといったら、自己保存という生命の目的は人間という命から湧いてきて人間化されると、意志になるんです、意志。「いし」というと、Stoneじゃなくて、Willですけどね。石になって固まっちゃってどうするのってね。このStoneじゃなくて、Willという意志になる。自己保存の欲求というものが、人間という命から湧いてくると、Willという意志になる。意志とはなんなのか。意志とは、自己実現、自己創造、自己反省の力である。意志は、自分自身を一個の個性ある存在として、この完成させていく。その力が意志の力であります。だから、意志の弱い人間は、物事を途中で放棄する。意志の弱い人間は、自分を本当に自分らしい個性ある存在として完成されるという人生を歩むことができない。途中で挫折する。だから、まず人間がですね、人生においてこの必要とするのは不撓不屈の意志、どんな困難にも負けない。どんな困難でも乗り越えていくぜ。そういうこの不撓不屈の意志の強さをですね、まず自分のものにすることが素晴らしい人生を生きるための基本原理ですね。**

**自己保存の欲求というものが人間という命から湧いてきたら意志になる。だから、人間の人生の目的の１つは、意志を実現することなんだ。意志を実現するとは、自己を実現することだ。意志を実現するとは自己を実現することである。自己実現、自己創造、自己完成の人生を歩むことが、意志の実現なんだ。だけど、意志を実現しようと思ったら、意志の強さがなかったならば、意志は実現できない。どうしたら意志の強い人間になれるのか。そのことをですね、考えなければなりません。意志の強い人間とはいったいどういう人間なのか。これまでの哲学においてはですね、意志の強い人というのは、理性的な人なんだといわれてきました。すなわち、本当に意志の強い人というのはですね、このこれまでの哲学においては、これまでの人間観においては、意志の強い人というのは、自分のしたいことは我慢して、しなければならないことが最後までちゃんとできる。そういう人が意志の強い人なんだというふうに言われてきたんですね。すなわち、意志の強い人は我慢できる人なんだ。我慢できんやつは駄目だ。我慢できる人が立派な人なんだというふうに言われてきたんですよ、これまではね。**

**だけどもですね、そういうこの自分のしたいことは我慢して、しなければならないことが最後までできる。そういう意志もね、確かにありますし、そういう意志が必要なこともあるんですけど、だけど、そういうこの理性で作為的につくった意志の強さには限界があります。そういう意志を決して悪いというわけじゃないんですけど、限界があるんだ。自分のしたいことは我慢して、しなければならないことを最後までちゃんとできるという意志の強さは、すでに自分のしたいことは我慢するというね、我慢しなければならないものが片方にあるだけ、もうすでにその意志の強さには限界がある。だから、この理性的につくられたですね、意志の強さというものは、自分が何かしら、やってることをですね、何かやれなくなってしまって、困難な問題にぶつかってしまったりすると、そうすると、また理性でやめる理由をちゃんと考えてですね、やめてしまうみたいな、そういうことにこうなってしまいやすいんですよ。だから、常に理性的な意志は、途中で挫折をするというね、まあ、そういうこのことになってしまいやすい。そういう意味では、理性によって作為的につくられた意志の強さは限界があって、その、まあ、言ってみれば、本当のね、本当にわれわれが人生で求める不撓不屈の意志というものではない。**

**本当にわれわれが必要とする不撓不屈の意志、どんな困難でも乗り越えていくぜというですね、そういうこの意志の強さを自分のものにしたいと思ったら、どうするのかといったらですね、どんな困難でも乗り越えていくというふうな、不撓不屈の意志っちゅうのは、どんな困難でも乗り越えていくんだから、理屈抜きのところにその根拠がないといかん。じゃあ、その意志の強さにおける理屈抜きの根拠とはなんなのか。それは、命から理屈抜きに湧いてくる欲求の強さと大きさがですね、この不撓不屈の意志を支える力なんだ。すなわち、意志の強い人とは、欲求の強い人なんだ。意志の強い人は、欲望の強い人なんだ。意志の強い人とは、命から湧いてくる、興味、関心、好奇心の強い人なんだ。本当にわれわれが意志の強い人になろうと思ったら、欲求の強い人にならないかん。自分の命から抑え難き欲求が湧いてこなければ、不撓不屈の意志、どんな困難にも負けないという生き方はできないんだ。なぜならば、命から欲求が湧いてこなければ、行動力は出てこない。欲求が湧いてこなくなったら、行動をやめるんだ。命から欲求が湧いてくる限り、人間は行動をし続ける。命から湧いてくる欲求がある限り、かっぱえびせん状態でですね、もうどうにも止まらないって、もう本当に山本リンダ状態で突っ走るというですね、そういう状態になってしまう。**

**命から欲求が湧いてくるということがですね、行動力の原点である。命から欲求が湧いてこなければ、命は燃えないんだ。理性では燃えられないんだ。本当にわれわれが不撓不屈の意志を持とうと思ったらならばですね、命から抑え難き欲求が湧いてくる。そういう自分をつくらなければならない。そのことによって、われわれは不撓不屈の意志をものにすることができる。じゃあ、どうすれば、抑え難き欲求が湧いてくるのか。そのためにですね、考えなきゃならんことが、先ほど申し上げた理性を手段能力に使って、自分の命に問いを発して、自分の命から欲求、欲望を呼び覚ますという方法をですね、自分が自分に対してですよ、その男であったら、おまえ、どんな男になりたいんやと、こう自分に問うわけですよね。そして、自分の命から、俺はこんな男になってみたいな。そういう欲求が湧いてきたらね、まさにその欲求を実現することこそ、命が燃える、生きがいのある、素晴らしい人生ということになるわけですね。欲求を実現する人生が、素晴らしい人生なんですよ。**

**だけど、欲求といってもね、動物的次元のこの欲求ではですね、野獣である。だから、どうすれば人間的に価値がある欲求をわれわれは持つことができるのかという方法論を知らなければならない。その方法論が、理性を手段能力に使って、自分の命から抑え難き欲求を呼び覚ますという方法なんですよ。で、その方法で３つあってね、先ほど申し上げたように、どんな人間になりたいのか。人間というのはいないんですから、おるのは男と女だけですから、だから、男は自分に対してどんな男になりたいんやというふうに問うて、俺はこんな男になってみたい。女性はどんな女になりたいのかっちゅうことを自分に問うて、私はこんな女になりたい。本当にそういうこの欲求が湧いてきたならば、そういうなりたい自分になるための努力をすることが最高の人生だ。それが自己実現なんだ。それがこの自分の人生を生きるということになるんだ。そして、命が燃えるんだ。幸せなんだ。そういうふうにして、そのわれわれは、命からですね、常にこの欲求を湧き出させながら、人生を生きていくという、そういうことができるわけですね。**

**政治家であったならば、どんな政治家になりたいのか。社長さんなら、どんな社長になりたいのか。美容師さんなら、どんな美容師さんになりたいのか。建築家なら、どんな建築家になりたいのか。まあ、そういう自分が今、置かれておるですね、まあ、そういう役職、立場にそれを置き換えてですね、どんな係長になりたいのか、どんなグループ長になりたいのか、どんな部長になりたいのか、どんな仕事がしたいのか。今、自分のやってる仕事でもね、どういうふうな素晴らしい仕事が自分はしたいのか。同じ建築の仕事でもね、本当にこう自分がやってみたい仕事の仕方というのがあるはずなんですよね。そういうものを自分がつかんでですね、俺はこういうふうな仕事がしてみたい。そういうものを本当に自分がつかみ出したならば、その人は自分を発見したと言うことができますしね。そして、本当にそれがしたいなら、それをすることは、その人の喜びであり、命が燃える仕事になるわけですね。で、そういう方法でですね、この不撓不屈の意志というものをですね、つくることができます。**

**だけども、この意志の強い人は欲求の強い人なんだといってもですね、意志と欲求とは次元が違うんですよ。意志と欲求とは次元が違う。欲求はそのまま意志ではない。どういうことなのかといったら、欲求としてね、欲求として金が欲しいという欲求が出てくるでしょう。それは欲求なんで、まだ意志じゃないんですよ。金が欲しいという欲求が出てくる。じゃあ、どういうふうにして、金を手に入れるのかということを理性で考えるんですね。で、金を手に入れる方法はですね、かつあげもあるしですね、銀行強盗もあるしね、また宝くじを買うのもあるしね、競馬、競輪もあるしね。また仕事をするっちゅうことも、いろんな方法は、いろんな方法で金を手に入れることはできるわけですよ。で、そういういろんな方法で金を手に入れる、方法はあるんだけど、どの方法でその金を手に入れることが、どの方法でその金を手に入れようか。決めたとき、意志が決まったというんですよ。欲求はまだ意志ではない。欲求は金が欲しいということ。じゃあ、どういうふうにして、その金を手に入れるのか、いろいろ方法がある。よし、この方法で金をつくろうと決めたとき、意志が決まったっちゅうんですよね。だから、意志というのはですね、この欲求というものを根底に、核にして出てくるんだけど、だけど、意志が決まるためには理性が変わらなければならない。理性がそのあいだに変わって、初めて意志は決まるんですよね。**

**ということは、どういうことなのかといったら、この理性でこの方法ではない。この方法でやろうということを決めるっちゅうことは、決断なんです、決断。決断によって、欲求は意志になるわけですよ。そこで本当にわれわれが、不撓不屈の意志というものをね、この自分のものにしようと思ったら、決断とはなんなのかということをですね、決断とはなんなのかということを、ちゃんとちゃんとの味の素で知る必要があると。決断とはなんなのか。で、決断というのはですね、決めるという字とね、断、断つという字が合わさって決断なんですよ。だから、決めただけでは決断じゃないんだ。何を断つのか。これがちゃんとわからないと、決断にはならんし、意識は決まらんわけですよ。だけど、多くの人がですね、決断と言いながらもですね、決断というのは選び取ることなんだと思ってしまってですね、選び取るだけで、決めただけで決断したと思ってる人が多いんですよ。だけど、そういう人は必ず人生において迷うんですね。本当はそれは決断ではなくて、決めただけだから。**

**まあ、決断というのは、就職も決断だし、またその結婚も決断だしね、いろいろ人生にはそういう決断しなければならない場面があります。で、決断とはいったいなんなのかっちゅったら、何を取って何を捨てるかなんですよ。同時に２つのことはできませんからね。決断とは何を取って何を捨てるかなんだ。何を取って何を捨てるかっちゅうことは、何かに決めることというか、選び取ることなんですね。だけど、選び取っただけで人生をいってしまうとどうなるか。結婚でもですね、その多くの相手の中から、誰かを選び取って結婚するわけですけど、それを選び取るという、この何かを取って、何かを捨てるというこの選び取るということだけでいってしまうとどうなるかといったらですね、この結婚して生活をし始める。そうすると、何かしら必ず人間は不完全ですから、結婚生活には問題と悩みが出てくる。その問題と悩みが出てきたときにですね、その決めただけでいってしまった人間はどうなるかといったらですね、あ、こいつと結婚したから、こんな問題が出てきたんやと。ひょっとして、あちらの人と結婚しておったら、こんな問題は出てこなかったのに、失敗したなと思って、一瞬にして不幸になってしまう。で、これを人生の迷いというんですよ。**

**アサヒグローバルに就職してですね、で、いろいろ仕事をしてるあいだに人間関係の問題で悩み始めちゃったりなんかして、アサヒグローバルに就職したから、こんなやつに出会っちゃったのであってですね、ひょっとしたら、ほかのこの会社に行っとったら、こんなやつとは出会えない、こんな人間関係の問題で苦しむことはなかったのに。これは迷いなんですよ。そういう人はね、どの会社に勤めても、必ず自分故のそういうこの問題というものを必ず引き起こすんですね。だから、そのアサヒグローバルに来たから、そういう人に出会ったんじゃなくって、自分自身がそういうこの人間関係の問題を呼び起こしてしまっておる。自分故の問題なんです。だから、どの会社に勤めてもね、同じような問題が出てくるんですよ。だけども、理性で考えると、理性的に考えたら、上手に道を選択したら、こういう問題が出てこない、素晴らしい道があるんだ。素晴らしい選択があるんだ。問題が出てくるということは、間違ってる。問題が出てこない道を探そう。まあ、そういうふうにこう考えてしまうのが理性なんですよね。これ、理性故の迷いなんですよ。なぜかといったら、人間は不完全だから、問題の出てこない道はないんですよ。問題の出てこない人生はないんですよ。**

**誰と結婚しても、どんな会社に勤めても、どういうこの生き方をしても、必ず問題と悩みだけは出てくることになってるんですよ。しかも、この自分が選んだ道から出てくる問題というものは、すべて自分を成長させるため、自分を鍛えるために出てきてくれてる問題なんだ。問題がなかったら成長しませんからね。問題、悩みがなかったら、成長しない。問題、悩みというのは、自分を成長させるために、自分を鍛えるために出てきてくれてるんだ。人間は不完全だから、どの会社に就職しても、誰と結婚しても、どんな生き方をしても、問題と悩みだけは出てくることになってる。問題の出てこない道はない。経営においても、問題の出てこない経営はない。問題が出てこなければ、経営能力は成長しない。問題が出てくるから、経営能力は成長するんだ。問題を乗り越えていく努力をするから、経営能力が成長するんだ。問題のない、問題が出てこないことを願ってはならない。**

**現実の社会には悪がいっぱいありますけどね、悪があるから人間は鍛えられるんですよ。悪がなきゃ、ふ抜けになっちゃうんだ。悪がある現実の中でですね、どう生きていくか。だから人間は緊張感を持ってですね、まあ、鍛えられていって、そして、強い生き方ができる。問題がなかったら、ふ抜けの人生になってしまう。問題が出てくるから、鍛えられて、強い生きる力をですね、自分が持つことができる。そういう意味で自分のこの道筋、自分が選んだ会社、あるいは自分が生まれてきたこの家族、血縁、そういうこのものの中からですね、この出てくるあらゆる課題は、自分の命を鍛えてくれるために、自分に与えられた課題だというですね、まあ、そういうことを思ってですね、その問題というものを不都合と考えるんじゃなくって、どういうふうにすれば、その問題を自分は乗り越えていくことができる人間に成長できるのか。それをさまざまな本を読んだりね、いろんな人に会ったりなんかしながら、模索しながら、またいろんな人の助けを借りながらですね、その目の前の問題を乗り越えていくことができる努力をしなければならない。それが自分を鍛えてくれる。それが自分を大きく成長させてくれる。**

**今、自分の持っておる力で簡単に乗り越えられてしまうような問題は大した問題じゃないし、そういう問題では、自分は鍛えられない。今、自分の持ってる力でなんともならん。どうしたらええやろうな。だけど、なんとかせんことにはやっていけへん。そこで頑張ってるとですね、そうすると、自分の命から潜在能力が湧いてきて、そして、その今、自分の持ってる力でなんともならんのだからということで、潜在する能力が湧いてきて、その問題を乗り越えさせてくれるときが来る。そこまで耐えて、我慢して、この頑張り通すことができるかですね。そこに人生の大きな勝負どころがあります。命から知恵が湧いてくる。気付きが湧いてくる。そう簡単には湧いてこない。相当我慢して、相当頑張って、だけど、なんとかしたい。なんとかならんか。いろんな本を読んで、いろんな人に会って、いろんな人に助けてもらって、ようやく、ああ、そうかというかたちでね、この道がぱっと開けてくるということが、求め続けないと道は開けませんからね。誰かになんかしてもらおうと思ったら、これはもう依頼心と依存心が出てくるから、自分の力は出てこない。誰にも助けてもらおうちゅうんじゃなくって、自分からどうしたらええか。自分から求めて行動を起こしてですね、自分から求めて本を読み、自分から求めて人と会い、自分から求めていろんな人にですね、意見を聞いて、そして、その現在の壁を突破するですね、まあ、そういう道筋を自分が求めていく。そこにこの不撓不屈の意志、結果が出るまでやめんぞというね、そういう不撓不屈の意志が出てくる、この生き方があるわけですね。**

**まあ、とにかくその決断というものがですね、非常に人生においては大事な課題です。決断というのは、決めるだけじゃないんだ。どういうことなのかといったら、ある人と結婚したならば、ある人と結婚したならば、その結果としてどういういろんな問題が出てきたとしてもですね、ある人を選び取ったならば、大事なことは、そのとき自分が選び取らなかったものの中に、どんなに捨て難い、素晴らしいものがあっても、あるものを選んだならば、他のものは捨ててしまう。他のものへの思いを断ち切る。これが断なんですよね。ある会社に就職したならば、そのとき自分が選び取らなかった会社の中にどんなに捨てがたい素晴らしい条件があったとしても、ある会社を自分が選び取ったならば、そのとき、自分が選び取らなかったものへの思いを残さない。あるものを選び取ったならば、他のものへの可能性を断ち切る。他のものへの思いを断ち切る。逃げ道をふさぐ、退路を断つ、俺にはこれっきゃない。それが決断なんですよ。そうしないと、素晴らしい人生、迷いのない、健康に生きて、幸せになって、成功を手に入れるという人生は決してありません。**

**決めただけでいったら、迷いの人生なんですよ。多くの人がね、決断と言いながらもね、決めただけでいってしまってね、そして、問題が出てくると、失敗したなと思ってですね、こいつと結婚するんやなかったと。ひょっとして、あいつと結婚したら、こんなことにならなかったのになと思ってしまったりなんかして、一瞬にもう自分は不幸になってしまう。ひょっとして、あちらのほうがと思った瞬間に、自分の意識は分散する。だから、自分が選んだその人に自分の全情熱を傾けられない。相手にも不満を持たせてしまう。相手にも満足を与えられない。自分も不幸、相手も不幸。そして、この自分の底力が湧いてこないね。その一つのことに自分の情熱を傾けないから、だから、意識が分散するから、自分の本当の底力は湧いてこない。やること全部、半端だ。結局は半端な人生で、愚痴を言いながら一生を終わってしまう。それが普通の人の人生ですよ。**

**だけど、その愚痴、不平不満を言わないで、悔いのない人生というものをね、歩み抜いていこうと思ったら、決断しなければならない。あるものを取ったならば、そのとき自分が選び取らなかったものの中に、どんなに捨てがたい、素晴らしいものがあったとしても、あるものを取ったならば、他のものへの思いを断ち切る。決断とは捨てる勇気だ。捨てる勇気のない人間は、迷いをね、持ってしまうから、健康が害される。病気になってしまう。捨てる勇気のない人間は、問題が出てくる度に立ち止まって、そして、その問題に苦しむ。問題を乗り越えられない。問題を乗り越えられなければ、前進できない。だから、成功の道を歩むことはできない。成功した人間は問題を乗り越え続けた人間だけなんですよ。なんらかの意味で問題を避けないで乗り越えていかないと、前進は、人生の前進は、前に進むっちゅうことはできない。成功の道は問題を乗り越え続ける道なんだ。人生とは問題を乗り越え続けること。経営とは問題を乗り越え続けること。そのためにはどうするかといったら、この多くの可能性の中からあるものを選んだならば、他のものへの思いを断ち切って、俺にはこれしかない、俺にはこいつしかおらん、俺にはこの道しかないんだ。この道しかないんだから、だから、どんな問題が出てこようと、この道しかないんだから、もう出てくる問題をばかになって、しらみつぶしに乗り越えていく以外に俺の人生はないんだ。そういう腹が決まったとき、力が湧いてくるんですよ。自分の底力が湧いてきて、知恵が湧いてきて、気付きが湧いてきて、そして、乗り越えられなかった問題が、えっと思うようなかたちでぱっと乗り越えられてしまうんですよ。これが決断した人間のね、人生の吹っ切れた、この吹っ切れたことによって出てくる力なんですよね。**

**迷ってるあいだはね、力が出てきません。これっきゃないんだ。もうこれに決めたんや。もう絶対、迷わんと。やるっきゃないんやっちゅってですね、とにかく問題を乗り越えるための努力をし続けておったら、ばかになってやっておったら、必ずこの底力は湧いてくる。命にはさまざまなね、素晴らしい潜在能力が与えられてますのでね、必ずこの問題を乗り越える力が湧いてきます。知恵が湧いてきます。ああ、こうしてみたらよかったんやって、そういう道がぱっと開けてくる。夜明け前が一番暗い。もう駄目やと思ってるところがね、陰の極でね、もうちょっと頑張ったら、日が差してくるのにね、みんなもう駄目やと思ってしまって、そこで挫折してつぶれるんですよね。夜明け前が一番暗い。もう耐えられんと思ったところが陰の極で、もうちょっと頑張ったらね、出口が見えるのに、みんなその出口が見えるところまで、ちょっと待てないで、もう駄目やというのでつぶれてしまう。我慢するというね、いうので、昔から言われてることですけど、我慢ならんといって爆発してしまったら、それは我慢じゃないんですよね。ならぬ堪忍、するが堪忍って、堪忍ならんというところを堪忍するのが本当の堪忍。堪忍というのは、我慢、耐えるということですよね。我慢ならんといって、やっちゃったら、これはもう我慢してることにならないと。我慢ならんところをもうちょっと我慢するのが我慢であってですね、それをならぬ堪忍、するが堪忍というんですね。これも人生のね、ものすごくね、大事なね、教訓ですね。**

**夜明け前が一番暗い。もう我慢ならんというところで我慢するのが本当の我慢だと。そこから道は開けるんだ。どんな問題でもね、乗り越えられない問題はない。本当に奇想天外なね、とんでもない方法がぱっと見えてきたりするんですよ。本当に頑張ってるとね。天啓の一瞬っちゅうか、天から与えられたね、そういうこの教えみたいなもので、え、あ、そうかというような、そんな感じでね、ぱっと道が開ける。そのためには、決断してね、そして、決めたんやと。もう俺は迷わんぞ。もう決めたんやから、もう出てくる問題をしらみつぶしに乗り越えていく以外に俺の人生はないんだ。俺にはこの道しかないんだ。俺にはこいつしかおらん。だから、もう出てくる問題をしらみつぶしに乗り越えていくしか俺の人生はないんだ。そう腹が決まったときね、確実にね、迷いのない、幸せな、成功への一本道が見えてきますよ。それがまた不撓不屈の意志をね、つくる重要な原理です。そういう不撓不屈の意志を持たないとね、本当の素晴らしい人生はありませんよ。結果が出るまでやめない。うまくいくまでやめない。どこまで我慢できるか。それが人生の勝負ですよ。途中でやめたらね、その程度のやつやったんか。その程度のやつやったで終わってしまうんですよ。結果が出るまでやめない。うまくいくまでやめない。そこで初めて、さすがやなというね、そういう人物になることができます。**

**何回失敗してもいいんですよ。失敗しないと、実力にならんのですからね。失敗しても、失敗しても、とにかくは、うまくいくまで俺はやめんぞ。それが成功する人間の生き様なんですよ。本当にね、成功した人間もね、過去を振り返ったらね、本当にもう地べたを這うような、血泥を吐くようなね、そういう大きな苦しみを何回も乗り越えてきて、何回やっても駄目や、駄目や、駄目や、なんともならん。そういうのをみんな通り抜けてきてるんですよ。それでようやくうまくいくまでやめなかったから、うまくいったというね、ただそれだけのことなんですよ。だけど、そのことによってね、命に潜在する能力がどんどん湧いてきて、そして、この自分の力が伸びていくというかたちで成長できるんですよね。まあ、とにかくまずは、人生のこの目的は意志を実現すること。意志を実現するとは、自己を実現することである。自己実現の人生を歩もうと思ったならば、意志の強さが必要だ。不撓不屈の意志はどこから出てくるか。命から欲求がわき上がる限り、人間は行動し続けることができる。**

**本当に何がしたいのか。本当にどうなりたいのか。本当にそれに決めたのかということを自分に問うてですね、本当に決めたんやったら、やり続けんないかん。そういう思いでね、自分の命から欲求、欲望を呼び覚ますというね、まあ、そういうことをしなきゃならん。そして、本当に決断しなければ、自分の底力は湧いてこない。本当に決断すれば、どんな困難でも乗り越えていくぜというね、そういう腹構えが決まってきて、人生は開けてきます。とにかく人生を生きる第１原理は、不撓不屈の意志、意志の強さをどうものにするかということですね。ちょうど半分になりましたので、ちょっと休憩を入れて、また後半の話に入っていきます。どうもありがとうございました。**

**（休憩）**

**芳村：それでは、後半の話に入ります。まずはですね、この人生の目的の１つは、意志を実現することである。意志を実現するとは、自己を実現することである。自己を実現するということは、この自分のすることを決めてですね、そして、それを最後までうまくいくまで、この諦めないで、問題を乗り越え続けながら、努力をするね。そこに不撓不屈の意志というですね、そういうこの意志の強さというものを持った人生が成り立つわけであります。まあ、とにかく意志の強さというのは非常に重要な人生のですね、原理だと。で、もう１つ、人生の目的がある。それはなんなのかといったら、種族保存の欲求というものが人間という命から出てくるとなんになるか。種族保存の欲求が人間という命から出てくると愛になる。愛とは何か。愛というのは、人間と人間を結び付ける力である。愛というのは、男女の愛もあり、親子の愛もあり、またこの兄弟の愛もあり、師弟の愛もある。いろんなですね、この関係性が愛の中にはありますけど、それは全部、人間と人間を結び付ける力というね、まあ、そういうこのふうにまとめることができる。**

**すなわち、愛は人間と人間を結び付ける力である。すなわち、愛は人間関係の力である。愛の究極の目標は素晴らしい人間関係をたくさんつくり出す。そこに愛のですね、究極の目標がある。で、いかに不撓不屈の意志を持って努力しようともですね、愛の力がなければ、また人生は失敗に終わります。やっぱり社会に出れば、人脈といわれてですね、素晴らしい人間関係をどれだけつくれるかがですね、自分の仕事がうまくいくかを決定する。また会社が発展するかを決定する。また家庭において、幸せな人生を送ることができるかを決定する。あらゆる意味において、素晴らしい人間関係をつくっていく力というものを求めていかなければ、またこの意志を実現することも不可能になってしまう。まあ、そういうことを考えると、もう１つのですね、人生の大きな課題は、愛の能力を成長させることだと。素晴らしい人間関係をたくさんつくる力というものを成長させていかないとですね、幸せな人生はあり得ない。**

**ところが、残念ながら、今日のですね、この人間関係を見てみると、ほとんどの人がですね、同じ価値観の人間としか仕事ができないじゃないか。考え方の違う人と一緒にやっていけない。感じ方が違ったら一緒に生活できない。そういうふうなことでですね、この自分と同じ考え方の人としか一緒にやっていけない。相手が自分と同じように考えてくれなかったら一緒にやっていけないというね、まあ、そういうこの意識になってしまっておる。それが今のですね、この人間における愛の現状だ。だから、ちょっとしたことで、違いを理由に夫婦は離婚する。自分の子どもが自分の言うことを聞かんと、むかつくっちゅってですね、そして、しつけのつもりが虐待になってしまう。宗教の違いで殺し合って戦争をする。これが現実のですね、人類の愛の現状であります。だけど、その自分と同じ考え方の人しか一緒にやっていけない。相手が自分と同じように考えてくれなければ、一緒にやっていけない。そういうこの愛の姿。これは偽物の愛だ。相手が自分と同じように考えてくれなかったら一緒にやっていけないという人間は、自分しか愛せない人間だ。自分しか愛せないような愛は偽物の愛だ。自分しか愛せないような愛で、どうして子孫が残せようか。愛は本来、男が女を愛し、女が男を愛する。そこにですね、愛というものの基本原理があるんだ。**

**愛というものは、種族保存の欲求というですね、雄と雌が命を合体させて子孫を残すという、そういう生物学的なこの命のあり方から愛は生まれてきてるんだ。だから、愛というのは、この他者を愛する。自分とは違う考え方の人とどうやっていったらうまくいくかっちゅうことを考えていくところからしか、愛は出てこない。同じ考え方の人間としか一緒にやっていけない。そこに愛はないんだ。自分と違う考え方の人とどうしたら一緒にやっていけるか。こうしてみようか、ああしてみようか。こうしてみたらどうだろう、ああしてみたらどうだろう。これが、この血の通った温かな心であり、心遣いであり、愛のこの具体的な姿である。同じ考え方の人間と一緒にやっていくなら、愛はいらん。理性で十分だ。理性は真理は一つと考えるし、理性は矛盾を排除するし、理性はみんなに共通するものを追求する、画一性を追求する。同じ考え方の人と一緒にやっていく。それは理性的な生き方だ。**

**だけど、これからわれわれがこの迎える社会は、個性の時代であり、個性の社会である。考え方の違う人と一緒に生きていかなければならない。離婚せんとこうと思うたらですね、離婚せんとこうと思ったら、考え方が違っても、感じ方が違っても、一緒に仲良くやっていく力をつくっていく以外に結婚生活を楽しく送る方法はありません。ちょっとした違いが、この許せないようではですね、それはこの残念ながら、人間が理性に支配されてしまっておって、人間らしい血の通った温かな心をなくしてしまってる証明だ。人間らしい温かな心があるということは、考え方が違う人とどうしたら一緒にやっていけるか。そのことを理性を使って考えると、血の通った温かな心が生まれてくるのであって、価値観の違う人とは一緒にやっていけない。そこには血の通った温かな心、人間らしい心は存在しません。どういうふうにしたら、われわれは素晴らしい人間関係をたくさんつくっていくことができるのか。そのためには、考え方が違う人とどうしたら一緒にやっていけるのか。感じ方が違う人とどうしたら一緒にやっていけるのか。宗教が違う人とどうしたら一緒にやっていけるのか。そのことを理性を使って考えないと愛は生まれないんだ。**

**愛というのは理屈抜きの世界ではない。愛はこの、愛は理性と対立するもんじゃなくって、愛は理性を使わないと、愛は生まれてこないんだ。すなわち、種族保存の欲求というものが人間化されて、愛になるということはどういうことなのか。人間化されるということは、この人間化されるということは、理性化されることなんだ。種族保存の欲求という動物的な次元の欲求が、理性というものがそこに関わって、理性化されることによって愛になるんだ。愛は理性でつくっていく能力なんだ。愛以前のものとして恋があるんですけど、恋というのは、これは好き嫌いというね、好き、嫌い、快、不快という、そういうこの状態が恋の段階であります。それはもうこの感性のね、判断能力なんですけども、だけど、愛というのは理性を使って成長させていく。理性を使ってつくっていく能力。それが愛なんですよね。**

**じゃあ、考え方の違う人とどうしたら一緒にやっていけるのか。そのことを考えるためにはですね、同じ考え方の人とばっかり付き合っておったら、楽しいし、愉快だけど、成長はしないと。成長しようと思ったら、この自分にないものを持ってる人と付き合って、自分にないものを相手から学んで、自分の考え方を成長させるということを考えなければならない。そして、自分と考え方が違う、自分と対立する相手というのはですね、明らかに自分にない何かを持ってるんだ。だから、自分が成長しようと思ったら、自分の考え方を相手にこの主張したり、また相手に反発を感じるんじゃなくって、相手は自分が学び取らなければならない、自分にないものを持ってるんだ。いったいこの人から何を学び取ったら、俺は大きくなるのか。俺は成長するのか。そのことを考えてですね、対立ということをきっかけにして、われわれは相手から学ぶという愛を覚えなければならない。愛するとは学ぶことだ。相手から学ぼうとしないっちゅうことは、愛がないんだ。まずは相手の考えに反感を持って、この敵対するんじゃなくって、自分と違う考え方の人に出会ったならばですね、いったいこの自分にない何を持ってるんだろう。俺はこの人から何を学んだら、俺は成長できるんだろう。そのことを考えて、まずはですね、その人からもっと学ぶべきものはないのか。何を学んだら、俺は成長できるか。そういうことを考えてですね、そして、その自分が成長するために必要なものを相手から学び取るというね、まあ、そういうこの活動を理性を使ってしないといけません。**

**対立というのはどういうことなのか。対立というのは、考え方が違い、宗教が違い、立場が違い、性格が違って、いろいろ対立するというのはいったいどういうことなのか。対立というのはいったいなんなのかといったら、対立というのは、自分が成長するために学び取らなければならないものを持ってる人が誰かを教えてくれる現象だ。あるいは、対立する相手に出会わなかったならば、自分にないものを持ってる人が誰かを知ることができない。だから、われわれは対立を避けないで、対立に向かっていって、対立を通してこの自分にないものを相手から学ぼうというね、そういうこの愛の力を成長させていかなければならない。で、いろいろ相手に質問してですね、そして、この自分にないものを相手から探し出して、そして、相手が持ってるもので、自分にないものを自分の中に取り入れる。そして、その相手から学んだものを自分の中に取り入れたら、俺の考えはどう変わるか。俺の考えはどう成長するか。そのことを考えてですね、そして、このどういうふうに言うかといったら、あなたと出会えてよかったです。あなたと出会えて、僕はあなたからこのことを学びました。そして、こんなことに気付きました。そして、こんなに成長できました。ありがとうと言える。それがですね、個性の時代というものを生きる力をつくっていく方法論なんですね。その全プロセスが愛なんだ。愛するとは学ぶことだ。個性の時代というのは、みんな考え方も違っててもいいし、立場も違っててもいいし、価値観も違っててもいいし、性格も違っててもいいし、宗教も違っててもいい。それが個性の時代ということのですね、この意味ですからね。だから、個性の時代というものを生きる力をつくっていこうと思ったらですね、考え方の違う人と仲良く生きる力をつくっていくということを考えて、そのための努力をする必要があるわけであります。まあ、とにかく自分と同じ考え方の人としかやっていけない。相手が自分と同じように考えてくれなかったら、一緒にはやっていけない。考え方が違ったら一緒にやっていけないという人は、自分しか愛せない人間だ。自己中心的な人間だ。本当に他者を愛することはできない。自分しか愛せない、身勝手な人間だ。そのことをね、まずよく考えてみる必要があります。そもそも自分と違う考え方というのはなんで出てくるのかということをね、ちゃんと押さえなければならない。自分と違う考え方はなんで出てくるのか。それは、自分と違う考え方というのは、自分の考え方において、欠落した部分を補ってくれるために自分と違う考え方は出てくるという構造になってるんですよ。これは宇宙の摂理なんですよ。俺はこうやっちゅったらですね、いや、そうやないやないかという人間が出てくるのが宇宙の摂理なんだ。これは避け難い、致し方のない、必然的な現象なんですよ。**

**宇宙というのは、あらゆるものがですね、相互補完というね、お互いにその足らざるところを補い合うという関係性でできておるのが宇宙の秩序なんですよ。だから、必ずですね、ある考え方があったならば、必ずそれに敵対する考え方が出てこざるを得ない。その２つの考え方が、お互いにバランスを取りながら協力し合って、初めて秩序というのが形成されていく。お互いが学び合うことによって、お互いが相手から学び合うことによってですね、この秩序が保てるし、また成長ができる。**

**ウィンウィンの関係性ということをね、よく最近、申しますけど、ウィンウィンというのは、お互いに助け合い、学び合うというね、そういう構造でこの関わることがウィンウィンという関係性なんですよね。そのために、とにかくは、この本当にわれわれがですね、この個性の時代を生きていくために必要な、本当の愛というものをですね、求めていこうと思ったならば、また本当に人間らしい生き方をしようと思ったならば、血の通った温かな心を持たなければならない。血の通った温かな心はどうしたらできるのか。それはこの考え方の違う人、価値観の違う人とは一緒に仕事ができんというところには、血の通った温かな心はないんだ。そこには理性しかないんだ。**

**血の通った温かな心をつくっていこうと思ったら、人間らしい、人間性を持ってですね、生きていこうと思ったら、考え方が違う人とどうしたら一緒に仲良くやっていけるかな。こうしてみたらどうだろう、ああしてみたらどうだろう。こうしてみようか、ああしてみようかと理性を使って思案する。それが愛なんだ。それが愛の実践なんだ。それが血の通った温かな心をつくる方法なんだ。例えその考え方の違う人と一緒にやっていけなかったとしてもね、こうしてみたらどうだろう、ああしてみたらどうだろうという、その努力が、血の通った温かな心なのでね、そういう努力を相手の目の前ですればね、必ずその愛の努力は相手の心を刺激する。相手に何かしら変化が出てくる。本当に相手と仲良くやっていきたいというね、そういう気持ちを本当に自分が持ったならばね、必ずそれは相手の心を動かしますよ。自分を守ろうとか、自分の考え方を相手に認めさせようとかしてるあいだは愛がないからね、相手はまた反発してくる。本当にどうしたら仲良くやっていけるんだろう。本当にそれを心から願ってですね、こうしてみようか、ああしてみようかって、いろいろやり始めたらね、必ずその行動は相手の感性を刺激してね、相手の心を刺激してね、そして、この相手もこちらに対する態度や思いを変えてくれるという、そういう結果になってきます。本音というかね、本気になったら、必ず事態は好転するし、変わる。あんまり作為的にあれこれこのね、理性を使って作為を労するということは、かえって無駄であってね、本当に自分のこの願いというか、本当の思い、本当に仲良くやっていきたいんだというね、そういう思いを本当にこうぶつけていったらね、必ず道は開けてくる。**

**だけども、そういう自分の思いというのは、どういうふうにしてこの相手にわかるのかといったら、こうしてみようか、ああしてみようか。自分のそのどうしたら仲良くやっていけるんだろう。本当は仲良くやっていきたいんだ。どうしたら仲良くやっていけるんだろうっちゅうことを行動をもってね、相手に示さないと、こちらの気持ちはわかってくれませんのでね。そういうことをしていったら、自分で仲良くなっていく方法を見つけ出すことができなくっても、相手がそれを感じてくれて、そして、この、まあ、相手もこちらのほうにね、そういうこの思いがあることを知ってくれるから、じゃあ、どうしたら仲良くできるかっちゅうことを相手も考えてくれ始めて、そして、このことが好転し始めるという、まあ、そういうことにこうなってくるわけですね。まあ、とにかく自分と同じ考え方の人としかやっていけないという、そういうこの自分と同じ考え方の人しか愛せないという愛は偽物の愛だということをね、まずちゃんと押さえてもらいたいと。そして、自分と違う考え方の人とどう仲良くやっていくか。そこにこの愛の文化、愛の力、愛の能力を成長させるですね、道があるんだということをわかってもらいたい。**

**そして、自分と違う考え方は必ず出てくるんだ。自分に敵対する人間は必ず出てくるんだ。これは必然であって、避け難い。だけど、その自分の敵は、自分の欠落した部分を補ってくれるために出てきてくれた相互補完というね、俺の駄目なところをこの救ってくれるために出てきてくれてるという関係性にあるんだ。だから、俺はその敵から学ばなければならない。自分の足らんところはなんなのかということを教えてくれるために敵は出てきてくれてるんだ。だから、その人から学ばないと、俺は成長できない。対立というのは、自分が成長するために学び取らなければならないものを持ってる人間が誰であるかを教えてくれる現象だ。対立を経験することなしには、自分にないものを持ってる人間が誰であるかを知ることができない。そういう思いを持ってですね、われわれはこの現実の対立という、そういうものにこの対応していかなければなりません。それがこの愛というものをですね、能力として成長させていくという、そして、素晴らしい人間関係をたくさんつくっていく力を自分が持つ。そういうことになってくるわけですね。**

**しかも、そういう対立を乗り越えていくというね、そういう努力をすれば、人間の器が大きくなる。度量が大きくなる。包容力が大きくなる。でっかい人間になっていく。そして、最終的には統率力というね、いろんな個性を持った人たちを束ねて、そして、その人たちに自由にこう活動させながらですね、それを生かし切ってまとめていくというふうなね、そういう統率力という力が最後には出てきます。とにかく個性の時代というね、これからの時代を生きていこうと思ったらね、そういう性格の違う人、考え方の違う人、宗教の違う人、そういう人とどう一緒にやっていけるのかということを理性を手段能力に使いながら考えて、なかなか結論は出ませんし、絶対こうだっちゅうことはないのでね、よりよい方法しか人間は考えられませんから、だから、こうしてみたらどうだ、ああしてみたらどうだということを、とにかくは諦めることなくですね、考え続けていく。その結果として、必ずですね、道は開けてくるという、まあ、そういうことにこうなってくるはずなんですよね。それが、まあ、愛の実力を成長させていく道なんですね。**

**そういうふうに考えていくとですね、この命の目的は、自己保存と種族保存なんだけど、人間における人生の目的は、意志を実現し、愛を実現することなんだ。意志を実現することは、この自己を実現することであり、仕事において成功すること。本当に自分を個性ある、存在感のある人間として、この社会の中で役立てていくですね、それがこの自己実現ということですけど、もう１つは、愛の実現。愛というのは人間関係の力である。素晴らしい人間関係をたくさんつくっていく。これも人生の大きなこの課題、目的である。そのことを考えたならばですね、人生とは意志と愛のドラマだ。人生は意志と愛のドラマだ。人間、本当に幸せになろうと思ったら、強い意志を持って自分を個性ある存在として完成されていくという道を歩まなければならないし、また素晴らしい人間関係をたくさんつくっていくという生き方をしなければならない。そのことによってしか、本当の幸せ、本当の成功、本当の健康は手に入らない。敵をつくれば病気になる。心が病んだらね、確実に命は病む。肉体は病むんですよ。病気というのは、気の病ですからね、心が病んだら、確実に肉体は病むんですよ。また肉体の病を治そうと思ったら、心が病んでる状態ではない、心を癒やしてですね、そして、心がその健康な状態にしていかなければならない。心の健康とはなんなのか。それは対立のない、対立を乗り越えた状態ですよ。**

**なんで人間は病気になるのかといったらね、自分の命の中でね、理性と感性をけんかさせる。理性と本能を対立させる。それが病気の原因なんですよ。このことを初めて解明したのは、あの有名な、ジークムント・フロイトのね、深層心理学で、理性による本能への抑圧があらゆる病気の原因だということでですね、最近は心療内科、精神内科といって、病気というものを、切ったり、薬を投与したりして治すんじゃなくって、心の健康を取り戻させることによって病気を治していくという、そういう方法が今、いろいろと開発されておるわけですね。あの有名な、遺伝子で有名な、村上和雄先生というね、遺伝子で有名な、世界的な遺伝子学者ですけど、病気を治そうと思ったらですね、命を喜ばせたらいいんだと。で、病気を治そうと思ったら、命を喜ばしたらいいんだから、大いに笑わないかん。笑うとですね、血糖値が下がったりね、笑うとその血圧が正常になったりね、笑うことによって体の機能を回復して、病気が治ったりということはある。だから、もうこれからはですね、病気になったらですね、そのB&Bとか、そういう面白いことをね、言う漫才師や落語家のですね、笑わせるビデオをですね、薬として出すんですよね。で、大いに笑わせて治してしまうという、そういうこともね、これからの医療としては考えないかんちゅうようなことをね、おっしゃってるんですよ。**

**それほど命が喜べばね、あらゆる病気が治る。だから、自分の中でですね、理性と本能を対立させたり、理性で欲求を抑えたりすると病気になるわけですよ。自分の命の中に対立構造を持ったら病気になる。また、命というのは開放形といって、命は外の世界と新陳代謝を通して、この交流し合うという、そういうところに命の健全な姿があるので、自分の外の世界に対して何かしら憎しみを持ったり、対立をしたりですね、うらやんだり、ねたんだり、恨みを持ったりすると、また病気になるわけですよ。だから、あらゆる意味において、病気の原因は対立なんですよ。だからこそ、対立を乗り越える愛の力を持ったら、健康になるんですよ。素晴らしい人間関係をたくさんつくるっちゅうことは、健康に生きる道なんですよ。健康をつくる方法なんですよ。そして、素晴らしい人間関係をつくったら、みんなに助けてもらって、協力してもらって成功できる。で、幸せになる。万々歳ですよね、これは。そういう意味でもですね、人生は意志と愛のドラマだ。どんな素晴らしい人間関係を持っておっても、仕事で失敗してるようじゃ、また話にならんしね。どんなにこの仕事において成功しておってもですね、人間関係がはちゃめちゃじゃ、これもやっぱり幸せではない。本当にわれわれが幸せな人生というものを歩もうと思ったら、この不撓不屈の意志を持って自分の思いを実現する。したいことをして、自分の思いを実現する。そして、素晴らしい人間関係をたくさんつくる。これが究極の幸せの原理なんですよ。**

**よく人生の目的として、金やというね、金さえあったらなんでもできるんやっちゅってですね、金が人生の目的やっちゅう人もおりますけど、だけども、金は命の外にあるものであってですね、命に内在する人生の目的ではない。金を人生の目的にしたらですね、金のために愛を犠牲にし、金のために意志を犠牲にする。金故にですね、本当に愛する人と結婚しないで、金のある人と結婚してしまう。金のためにですね、本当の自分のしたいことはしないで、もうかる仕事をしてしまう。結果としてですね、この意志と愛を犠牲にして、金の奴隷となって、人間は不幸になってしまう。命に内在する人生の目的、命に内在する幸せの原理は金ではない。意志と愛だ。自分を個性ある一個の存在として完成させるということと、そして、素晴らしい人間関係をたくさんつくっていく。この２つの原理に基づいて獲得した金だけが実のある金であって、意志と愛を犠牲にして獲得した金は自分を不幸にする金だ。結果として、みんなそうなってますよ。金を人生の目的にして働くことによって、家庭は崩壊するんですよ。そして、その金を目的にして、本当に自分のしたいことはしないで、もうかる仕事にどんどんシフトしていく。いかにもそれは成功の人生に見えるけれどもですね、結果としては、この本当にしたいことを自分はしないで、金に引きずられてですね、金に支配された人生を歩んでしまう。**

**そういう人は死ぬことになってですね、死ぬときになってから、俺はいったい何をしてきたんだ。俺の本当のしたいことは何もしてないやないか。俺はいったい誰なんだ。俺の人生はいったいなんだったんだ。そういうこのわびしいですね、気持ちを持って、空虚な心で死んでしまうと。そういう人も案外と多いですよ。俺のしたいことはなんもやってないと。しなきゃならんことをやってきただけだ。また金、金、金で、その金の奴隷になってですね、この働き続けてきた。なんの命の充実感もない。そういうことを言ってですね、俺の人生はなんだったんだと言って死んでいくような、そういう経済人も多いですよ。まあ、とにかく本当にわれわれが人生の目的として意識しなきゃならんのは、意志と愛だ。不撓不屈の意志を持ち、素晴らしい人間関係をたくさんつくって、この２つ以外に本当の人生の目的はないんだ。それを通して獲得した金だけが、実のあるですね、この価値ある金だ。金を人生の目的に、金を人生の目的とすれば自分を見失う。本当の自分の人生はなくなってしまう。金故に本当の愛を捨て、犠牲にし、金故に本当の自分のことをしないで、人生を生きればね、本当にこの殺伐とした、さみしい、充実感のない人生になってしまう。素晴らしい人間関係をたくさんつくるということと、自分を個性ある一個の存在として完成させる。この２つしかですね、本当の人生の目的はないんだ。そのことをぜひですね、忘れないでおいてもらいたい。**

**不撓不屈の意志というのは、言ってみれば、アサヒグローバルに勤めたならばですね、俺にはこの会社しかないんだ。この会社から出てくる問題をすべて乗り越えていく。そこに俺の人生があるんだ。そう腹が決まったらですね、自分は本当に健康で幸せで、どんどんとこの会社の中で頭角を現していく。そういう人間になれますよ。とにかく成長することは問題を乗り越えるしかないんですから。アサヒグローバルでいろんな問題が出てきたためにですね、こんなはずじゃなかったと。ほかの会社に行ったら、もっと幸せになれるんじゃないか。そう思ったら、迷いですよ、これは確実に。どこに行ったって、問題の出てこない会社はないんですから。悩みの出てこない会社はないんですから。どこに行ったって、人間関係の悩みはあるんですよ。どこに行ったって、自分の能力というものは限界があるから、仕事上の悩みも出てくるんですよ。同じなんです、結局は。自分故の問題はどこに行っても出てくる。誰と結婚しても出てくる。だから、もうこの誰と結婚したら幸せになるとか、どの会社に行ったら、この素晴らしいとかね、そういうことは考えることがですね、だいたい無駄で、迷いなんですよね。とにかくいったん決めたら、もう迷わない。出てくる問題をしらみつぶしに乗り越えていく。そこにこの自分の人生があるんだというね、そういうことを考えなきゃならん。**

**多くの方々がね、悩みのない、問題のない人生を望むんですよ。それは理性で考えた人生ですよ。理性で考えたらね、問題が出てきたということは間違いなんだ。上手に選んだら問題は出てこない。正しい道があるんだ。それは理性で考えたことですよ。だけど、問題の出てこない人生はないんだ。問題があることは当然であって、問題がないというのは、それは問題がないんじゃない。問題がないというのは、それはあるのに見えてないだけだ。問題のない人生なんてないんだ。問題のない会社なんてないんだ。問題がないと思ったとき、一番それは危ない。問題があるのに見えてないんだ。問題があるのが正常であって、問題がないのは異常だ。問題があるのが正常な人間社会だ。不完全な人間が生きる社会には常に問題、悩みがある。それは正常なことなんだ。何も問題はないと思ったら、それは一番危ない。それはあるのに見えてないんだ。飛行機でもなんでもそうですけど、点検してね、何も問題はありませんでした。危ないんです、これはね。こういうところに問題があったけど、だけど、ちゃんと対応して、次の飛行場に着くまでは大丈夫ですって言うなら安心なんですけどね、何も問題はありませんでした。あるのに、見つけてないんですよね。これは一番危険な状態ですよ。とにかく問題のない人生はない。われわれは決して問題のない、問題の出てこない、悩みのない人生を求めてはならない。人間は本当に幸せに生きようと思ったら、問題と悩みを乗り越える力を成長させる以外にないんだ。問題のない人生を求めることは、人生からの逃げだ。問題のない会社、問題のない仕事を求めることは仕事からの逃げだ。ぜひこの人生の基本原理をね、よく考えてみてもらいたい。**

**これはこのすべての人の人生に言えるんですね。人生を生きる根本原理なんですけども、この命をなんのために使うかということをですね、個人のこの生き方に置き換えてですね、この自分自身の個人的な、個性的な人生の目的というものをどうつかんだらいいのか。どうすれば、この俺の使命、俺の志というものを自分が持てるのか。その方法論は６つあるのでね、最後にそれをお話しして、今日の話の締めくくりにします。個人としての志の立て方っちゅうことですね。本当に自分が命を燃やして、素晴らしい人生を生きていこうと思ったら、これから申し上げる６つの方法しかないんですよ。どうしたら自分が命を燃やせる、素晴らしい人生を生きる志というものがですね、つかめるのか。第１番目はですね、現実の社会に存在する問題、現実の世界に存在する問題、現実の社会、世界に存在する問題がですね、自分に使命を与えてくれてる。自分に志を与えてくれてる。問題というのはですね、誰かこの問題を解決するやつはおらんかちゅうて出てくるわけですよ。問題というのは、その時代にふさわしい問題しか出てこない。だから、その時代に生まれてきた人間しか、その問題を解決できないんだ。問題こそまさにこの時代に生まれてきた人間に、この時代に生まれてきたからにはこの仕事をしろよ。この問題を乗り越えろよ。問題とは仕事を与えてくれてるんですね。**

**この現在、世界に何かしらいろいろ問題がありますけどですね、それでもこの俺には関係ないわといってですね、見て見ぬふりをしてほっとくんじゃなくってですね、何かしら世界に大きな問題があったならばね、俺がなんとかしたろうやないか。俺が持ってる力でなんかそれに関われへんか。俺たちがやってるこの仕事で、何かしらそういう問題にこの助けになる、そういう問題に関わることができないか。そういうふうにしてですね、われわれは攻めの経営、攻めの人生、積極的に自分からこの仕事をつくっていく。自分からこの志をつかんでいくという、そういう生き方ができるわけですね。社会に何かしら問題があったならば、自分とは関係ないというんじゃなくって、俺がなんかその問題に関わってやろうやないか。俺がなんとかしたろうやないか。そういう思いで立ち上がっていく。だけど、そういうふうなね、生き方をしようと思ったらですね、他人の苦しみをわが苦しみとして感じる、共感同苦。他人の悲しみをわが悲しみとして感じる、共感同悲。そういう感性がなかったならばですね、そういう仕事のつかみ方はできません。そういう志の立て方はできません。**

**明治維新のころはですね、国難という大きな課題に対して多くの若者たちが立ち上がった。ほっとけへんと。政府はあてにならん。俺たちがなんとかせんことには、日本は属国になってしまう。大変や。なんとかしようっちゅうんでですね、この血気に燃えたですね、若者が立ち上がって、明治維新という時代をつくったんですね。国難に向かって立ち上がった。俺たちがなんとかしようやないか。そういうこの生き方もあるわけですよ。業界に何かしら大きな問題があったならばね、俺がなんとかしたろうやないか。まあ、そういう思いで、この業界におる限りはね、その業界の問題に対して、それを俺の使命、それが俺の仕事やと感じるというね、まあ、そういうこの生き方もあるわけですよ。また家庭に、家族に降り掛かる問題に対してでもですね、そのために自分が尽力をする。そのことによって、その時代の問題に対応できるね、そういうこの力が出てくると。**

**今、舛添さんがね、厚生大臣で頑張ってますけど、なんで厚生大臣になっちゃったのといったら、自分の親の問題でね、いろいろ苦しんで、高齢化社会の医療とかいろんな問題で苦しむという、そういう体験があったから、なんとかせんないかんという思いで、厚生大臣ならやりますといってですね、で、やり始めて、で、今、非常にその国民の、まあ、気持ちをつかんだようなね、そういうこの厚生大臣としての非常に素晴らしいね、この活躍をしてます。まあ、そういう家族に降り掛かるね、問題をですね、俺の使命、俺の仕事としてつかむことによって、同様の問題を抱えた人の多くの人に役に立てるというね、そういう人生もあるわけであります。で、こういうのをですね、まあ、感性論哲学では、降り掛かる苦難の中に使命あり。自分の身に降り掛かる苦難こそ、自分の身に外から降り掛かってくる苦難こそ、まさに自分に仕事を、使命を、志を与えてくれてるんだ。そういう理解の仕方がね、できるわけであります。**

**実際問題、そういう仕方で多くの人が活躍して、歴史に名をとどめました。現実の世界に存在する問題は、誰かこの問題を解決するやつはおらんか。問題を解決するっちゅうことは歴史をつくることなんですよ。われわれは自分の生まれてきた、その社会と時代の問題をこの自分の力で解決することによって歴史をつくる。新しい時代をつくるという仕事ができるわけであります。そういう意味で、われわれはもっともっと現実の社会の問題、現実の世界の問題、また現実の会社の問題、現実のこの家庭の問題に対して、もっともっとですね、われわれはこの自分に本当にこの生きがいのある素晴らしい人生を与えてくれるための問題がなんであるかを教えてくれてるんだというね、まあ、そういう意識を持ってですね、この家庭の問題をも見つめ、会社の問題をも見つめ、俺に何をしろというのかということをね、会社の問題が教えてくれてるというふうにこう理解しなきゃならないし、社会の問題も、国家の問題も、世界の問題もですね、それを解決することをこの時代に生きてる人間に天は、宇宙は、要求してるんだ。誰かこの問題を乗り越えるやつはおらんか。そういうこのことからですね、自分がその問題にこう立ち上がってですよ、俺がやったろうやないかとこう立ち上がるというね、そういうふうな生き方をね、ぜひ考えてみてもらいたいと。まあ、それが１つ。とにかくは、自分の使命、志はね、問題が与えてくれる。問題が与えてくれてるんだ。そういうことが第１原理ですね。**

**第２番目はですね、本当に命を燃やして素晴らしい人生を生きていこうと思ったら、時流に乗る。時の流れ、時流に乗るというね、そういう生き方を考えなければならない。時の流れに反すれば、いかなる努力も水泡と帰する。時の流れに乗れば、少ない努力で大きな成果を獲得することができる。そういう意味で、素晴らしい人生を生きようと思ったら、時流というものをつかむことは非常に大事な人生の課題ですね。時流に乗って、そして、この時の流れを俺がつくるというね、時代の変化に付いていくという、そういう惨めったらしいですね、後追いの人生じゃ駄目だ。時の流れを俺がつくるんだ。道なき道を俺が切り開いていくんだ。いったい時代はどういうものを求めておるのか。それを俺がつくったろうやないか。それを俺がやったろうやないか。そういう意味でですね、時流というものをつかんで、時流の先を読んで、みんなが求めておるものを自分が提供するみたいなね、そういうこの時の流れを俺がつくる。時流独創というんですけどね、時流独創。時の流れを俺がつくる。時流独創の人生というものをね、この歩む。これもやっぱり、素晴らしい人生の一つのあり方ですよね。**

**で、時流のつかみ方というのは、これはいろいろあってね、どういうふうにもういろんなつかみ方がありますけど、とにかくは、時流に逆らえば、あらゆる努力は水泡と帰する。時流に乗れば、少ない努力で大きな成果を獲得することができる。そういうこの時流というものを意識したね、生き方というものを考える。これも非常に大事なですね、その素晴らしい人生のつくり方であります。時流というものを通して、俺の志、俺の使命というものをつかんでいく。俺の仕事をつかんでいく。そういうことも考えなければならない。確実に建築業界にも時流がありますよ。いったいこの業界が何を将来の方向性においてですね、求めておるのか。そのことを通しながら、仕事の仕方を考える。またいろんな、今までなかった新しい何かをつくっていく。まあ、そういうことも命が燃える仕事のね、仕方であります。**

**それから、３つ目はですね、これは命から湧いてくる欲求というものをですね、この原理にして生きるということですね。これは、まあ、先ほども欲求をどういうふうに呼び覚ますかということを申し上げましたけど、欲求というものこそ、自分に素晴らしい人生を生きるですね、この仕事を与えてくれてる。欲求というのは、まだ実現されていないから欲求なんだ。欲求はまだ実現されていないから欲求なんだ。欲求こそ、命が喜ぶ理想だ。欲求こそ、まさにこの命が喜ぶ仕事、命が喜ぶことはなんなのかということを教えてくれてるんだ。そういう欲求というものを原理にして生きたら、確実に命は燃える。欲求しか命を燃やす原理はないんだ。欲求しか行動力をつくる原理はない。欲求が出てこなくなったら、行動をやめるんだ。欲求を原理に生きる方法というものをね、われわれは覚えなければならない。**

**なかなか、その欲求が湧いてこないというね、まあ、そういう人もおるんですけども、先ほどはですね、その欲求を呼び覚ますために、どんな人間になりたいのか、どんな仕事をしたいのか、どういう生活がしたいのかというね、まあ、そういうこの理性を手段能力に使った欲求の呼び出し方ということをお話をしましたけど、もう１つですね、この欲求というものをこのつくり出す方法があってですね、それはどういう方法なのかといったら、人間の心、人間の本質は心と言われますけど、人間の本質である心は、意味と価値を感じる感性だ。人間の本質である心は、意味と価値を感じる感性だ。人間は意味を感じないと、やる気にならん。価値や素晴らしさを感じないと、命に火が付かない。感じないと燃えない。感じないとやる気にならん。考えておっても駄目なんですよ。感じないとやる気が出てこない。意味と価値を感じないと、やる気にならん。それを原理にしてどうするかといったらですね、今、自分がやってる仕事の意味や価値や値打ちや素晴らしさを考えてみる。自分が今、やってる仕事を、もし自分がやらなかったら、会社はどうなるのかということを考えたらね、今、自分のやってる仕事の会社における重要性というのは、いっぺんにわかるわけですよ。**

**今、自分のやってる仕事を自分がやらんかったら、会社のあらゆる業務は停滞する。ストップするんだ。会社の有機性が壊れる。自分のやってることは、会社の命を握ってるんだ。そういうことは、みんな言えるわけです。どの仕事でも。それだけの素晴らしいね、価値ある仕事をしてる。そういう思いを自分が持ったならばね、その俺は会社の命を握ってるんだ。俺が仕事をしなければ、会社の業務は停滞する。会社は死ぬんだ。まあ、そういうふうな価値のね、つかみ方もあります。まあ、とにかく今やってる、今、自分がやってる仕事の意味や価値や値打ちや素晴らしさというものをですね、よく考えていったならば、必ずですね、この今、自分が感じておるより、もっとこの素晴らしい価値や意味が自分の仕事の中に発見されるはずなんですよね。仕事というものは、価値のない仕事はないし、意味のない仕事はない。だけど、意味を感じないで仕事をしておったら、意味のないことをしてるんですよ。価値を感じないで仕事をしてるのは、これはその義務と命令でね、やってるので、意味を感じて初めて自分が仕事をするという仕事の仕方ができるんですから、価値を感じないで仕事をしてるって、それは価値のない仕事をして、価値のない仕事の仕方になってるんだ。意味と価値を感じて初めてですね、人間はやる気というものを持つことができる。**

**とにかく意味を感じないとやる気にならん。価値を感じないと命は燃えない。だから、どうするかといったら、理性を手段能力に使って、今、自分のやってる仕事の意味や価値、値打ち、素晴らしさを考える。本当に人間がですね、今、自分のやってる仕事の本当の素晴らしさ、価値を感じたら、死ねるんですよ。俺はこの仕事のためやったら、死んでもええな。そういう思いをどんな仕事でもですね、最終的には持つことができます。ごみを拾うという仕事でもですね、その俺はただごみを拾ったんじゃないぞ。俺はごみを拾いながら、おまえら、威張って歩いてる人間たちの心の掃除をしてやってんだと思ったらね、この人間の心の掃除をしてるという思いでごみを拾うならば、ごみを拾うという仕事のためだったら死ねるなというね、それほどの価値を、意味を感じ始めるんですよ。だから、その本当に意味を、価値を感じたら、死なない仕事はないんですよ。どんな仕事にだって、死んでもいいと思えるほどの素晴らしさがみんなあるんですよ。自分の今、やってる仕事の素晴らしさ、必要性、重要性というものをね、ぜひこう意識しながらですね、仕事をしてもらいたい。そうすることによってですね、このやる気という欲求がこう湧いてきます。**

**で、意味や価値がわかってくると、興味、関心が出てきますから、興味、関心が湧いてくると、欲求が湧いてくるというね、そういう構造で、命から湧いてくるというものがつくれる。命から湧いてくるものが出てくれば、行動力になってきて、やめられない、止まらない、かっぱえびせんになるわけですね。もうどうにも止まらないって、リンダ状態で突っ走るというね、そういう状態にだんだんこう、まあ、成長していくことができる。ぜひね、そういうね、楽しい仕事、本当にこう、自分が喜びを感じながら、生きがいを感じながら、やる気になってできる仕事というものに、自分が自分をしていかないと、他人にしてもらおうと思っても、なかなかこれはならない。自分自身で目覚めていく以外に、自分が仕事をすることに幸せを発見する方法はないんですよ。まあ、とにかくそういう欲求というものを原理にしてですね、この自分の人生をつくっていく。自分の仕事をこうつくり出すというね、まあ、そういうこの方法があります。したいことをすることは最高の人生だ。**

**次、第４番目はですね、天分のツボにはまる。これも素晴らしい人生ですよね。将棋なら羽生や、野球ならイチローやというね、そういうこう人たちというのは、皆、天分のツボにはまっちゃった人生ですよね。だけど、天分のツボにはまる人生というのは、特別な人しかはまれないんじゃないんだ。全部の人が天分というものを生まれながらに与えられて出てきてますので、誰でもその気になればね、天分のツボにはまれるんですよ。だけど、なんではまらんのか。これは自分の天分はなんなのかわからんからですよ。自分の天分がなんなのかわからんから、いったい何をするために宇宙は俺をこの時代に生み出したのか。俺に宇宙が期待しておる仕事、生き方とはなんなのか。それをつかんだら、天分のツボにはまるわけですよ。だから、天分というのは、生まれながらにその人に与えられてるわけですよ。生まれながらにその人に与えられておる能力というのは、潜在能力というんですよね。潜在能力というのはどこに潜在してるんですかといったら、染色体の中にある遺伝子が潜在能力なんですよ。遺伝子というのは、能力が物質化したもんなんだ。その能力が物質化した遺伝子によって、人間の顔のかたちが決まるんですよね。だから、天分が、自分には自分にしかできないことがある。俺にはほかの人間はできない何かができるんだ。そういう力を生まれながらに俺は与えられてるんだということを証明する原理は顔なんですよ。顔が違うっちゅうことは、確実に俺にはほかの人間にできない何かができる。俺が最高というものを俺が持ってるから、俺は俺独特の顔をしておるんやということなんですよ。だから、自分の顔を生きれば、確実に自分は天分のツボにはまれる。すごい人間になれる。**

**じゃあ、どうしたらいったい、自分の天分、自分がこの母なる宇宙から与えられたですね、この時代においてしなければならない仕事、天分というものが自分でつかめるのか。まあ、これはこの講座ではもう何回もいろんな状況でお話をしてきたことなんです。天分のつかみ方ね。この自分が最高と言えるですね、そういう天分をつかもうと思ったら、５つの方法がある。で、天分というのは、これは潜在能力ですので、理性ではわからない。理性は顕在能力ですから、顕在能力では潜在能力はつかめない。潜在能力である天分をつかもうと思ったらですね、この後天的な理性という能力じゃなくって、先天的な能力を用いなければならない。先天的な能力とはなんなのかといったら、先天的な能力、命において先天的な能力とは感性と肉体だ。肉体という能力と、感性という能力を使ったら、自分の天分がわかる。俺はいったいなんのためにこの時代に生まれてきたのかっちゅうことがわかるわけですよ。俺に母なる宇宙は何をしろというんだという、それがわかるわけですよ。**

**じゃあ、どうするのかといったらね、肉体と感性を使って自分の天分をつかむ。どうするのかって、まず、第１番目は、やってみたら好きになるかどうか。やってみて好きにならんかったら、やったらいかん。やってみて好きになることしかやったらいかん。好きこそものの上手なれという言葉がありますけど、好きこそものの上手なれというのは、好きやと思うことには天分があるんですよ。だけど、大事なことは、野球を見ておって好きでも、天分には関係ないんです。野球をやってみて好きになったら、天分がある。野球をやってみて好きにならんかったら、天分はない。なんでかといったらね、この天分というのは潜在能力で、潜在能力というのは遺伝子で、遺伝子は物質で、肉体の一部分なんですよ。だから、肉体を使わないと、その遺伝子があるかどうかわからんのですよ。野球を見とって好きでも、天分には関係ない。野球をやって好きだったら、その天分がある。どの程度、好きかは、どの程度の天分かは、どの程度好きになるかによって決まる。最初はちょっと好きでもね、やってるあいだにどんどん好きになっちゃって、めっちゃ好きになってしまうということもあるので、どんどんこの潜在能力が出てきますからね。最初からめっちゃ好きじゃなくってもね、とにかく好きなことをやらないかん。好きにならんことをやったらいかん。やったらいかんっちゅうか、好きにならんことはね、やっても人類の平均を超えないんですよ。で、この嫌いなことでも、努力すればそれだけ伸びるんですけど、だけど、嫌いなことをやってもね、人類の平均を超えられないんですよ。平均まではくるんですけどね、平均を超えないんですよ。だけど、この好きなことをやったらですね、他人よりも少ない努力でぐんぐん伸びて、断トツになってしまう。これが好きこそものの上手なれというね、言葉の意味であります。まずは、やってみて好きになるかどうか。これが天分の発見方法の第１番目。**

**第２番目はですね、やってみたら興味、関心が湧いてくるかどうか。やってみても、興味、関心が湧いてこなかったら、やったらいかん。やってみたら、興味、関心が湧いてきたら、やらないかん。まあ、そういう判断をするんですね。で、会社の業務というのはいろいろありますからね、だから、その会社を変わる必要はないんだ。今、自分の勤めてる会社の中で、俺が好きなこと、俺が興味、関心のあることを探し出したらいいんですよ。やってみたら、興味、関心が湧いてくるかどうか。第３番目は、やってみたら、得手、得意と思えるかどうか。やってみたら、得手やと思ったら、ぐんぐん伸びる。やってみても、得意なことやなと思わんかったら伸びない。そのときは他人よりもできがよくってもね、得意と思わんことは、それ以上、伸びん、あんまりね。だけど、そのときは他人よりもできが悪くても、得意と思うことは、やり始めたらぐんぐん伸びる。これも非常に大事なね、この、まあ、能力のつかみどころの勘どころなんですよね。**

**で、第４番目は、他人と一緒にやったら、いつも自分がよくできてしまうかどうか。他人と一緒にやったら、いつも自分が勝ってしまう。いつも自分がよくできてしまう。これはもうやらないかんと。何回か他人と一緒にやったら、何回か負けることがあったら、もうこれは、このことについては、俺よりすごいやつがおるんやから、もう俺はやめとこう。ほかのことをやろうと思わないかんと。他人と一緒にやったら、いつも自分のほうがよくできてしまうかどうか。最後の５番目は、真剣に取り組んだら、問題意識が湧いてくるかどうか。真剣に取り組んだら、問題意識が湧いてくるかどうか。問題意識が湧いてくるということは、自分が出てきてる。自分の命から問題意識が湧いてくるんですから、自分が出てきてる。真剣に取り組んだら、問題意識が湧いてくる。これはどういうことなのかといったらですね、真剣にやり始めたら、必ず現実は不完全ですから、だから、なんかここのところ、もうちょっとなんとかならんのかなというね、そういう思いが湧いてくる。それは自分の命から湧いてきたんだから、だから、そこには君独特の何かできるものがあるぞということなんですね。**

**で、どんだけ真剣にやっておっても、全然、問題意識が湧いてこんちゅうことはね、そこにはもうからっきし、君の活躍する、そのところはないんだということをね、教えてくれてる。問題意識が湧いてこないということは、それは君のこの能力が発揮できる場所じゃないということなんですね。問題意識が湧いてくるっちゅうことは、何かしら、君独特の何かできるものがここにあるぞということを教えてくれてる。まあ、そういうことなんですよ。だから、ノーベル賞をもらうような研究なんかでもね、最初、どこから始まるかといったら、みんなそれでええと思っとるかもしらんけど、俺はなんか納得できんな。俺はなんかちょっとおかしいと思うな。そういうこの問題意識が命から湧いてくる。そこから、なんでそう思ったんだろうと思って、一歩突っ込んで考えていくと、ノーベル賞になっちゃったということになったりなんかしちゃったりなんかするわけですよね。まあ、そういうふうにして、自分の天分がわかるわけですよ。**

**で、この５つ、方法はあるんですよね。やってみたら、やってみたら好きになる所さんね。やってみたら、興味、関心が湧いてくる所さんね。で、３つ目は、やってみたら得手、得意と思える所さんね。他人と一緒にやってみたら、自分のほうがいつもよくできてしまう所さんね。最後は、真剣に取り組んだら、問題意識が湧いてくる所さんね。この５つの所ジョージさんがですね、天分の発見方法で、で、この５つの中のどれが一番、自分の命から強烈に湧いてくるか。この一番強烈にその命から湧いてくるもの、好きやっちゅうことよりも、問題意識が湧いてくることのほうが、なんべんも、なんべんも湧いてきて、強烈であったならば、好きなことをやめておいて、問題意識に人生を懸けるということをせんないかん。この５つの中のどれから入るかですよ。だけど、中に入っていったらね、最終的にはね、その問題意識も湧いてくるし、好きやし、興味もあるし、得意やし、みんなよりもよくできてしまうというような、そういうことになってしまいやすいね、だいたいそうなってしまうんですよ。**

**本当に自分の天分にはまったことをやり始めると、最初はただ問題意識に懸けただけなんだけど、だんだん好きになって、興味、関心が湧いてきて、で、その得意になって、で、他人よりもよくできてしまってという、そういう状態で全部そろっちゃったというような感じにね、なってくるんですよ。だけど、まずは最初、どこから入るかですよ。この５つの方法で確実に自分の天分がわかる。なんでかといったらね、世の中で成功した人は、好きなことをやって成功したか、その興味、関心のあることをやったか。あるいは、得意なことで頑張ったか。他人よりもよくできてしまうところでもっと努力したか。問題意識に人生を懸けたか。この５つしか、現実の社会の中で成功した人間の成功パターンはないんですよ。だから、この天分の発見方法というのは、現実の社会で実証された原理なんですよ。だから、これは確かなことなんだ。もうこれっきゃない。この５つの方法で自分の天分のツボを模索する。またこの５つの方法で自分の子どもの天分を見つけ出してあげる。またこの５つの方法で部下の天分も発見できる。そういうふうにして、個性ある能力を社員みんなが発揮してですね、そして、この楽しく仕事ができる。それが職場の、まあ、理想ですよね。なかなかそうは、うまくはいきませんけど、だけど、それに近づけていくというようなね、そういうこのことを、まあ、リーダーは考えなければなりません。まあ、これが天分のツボにはまるというね、この命が燃える素晴らしい生き方の第４番目の原理だ。**

**第５番目はですね、本当に自分が命を燃やして価値ある人生を生きようと思ったら、第５番目はなんなのか。第５番目の志のつかみ方。これは現実への違和感。現実への違和感というね、感性の実感です。現実への違和感。現実への違和感というのはどういうものかといったらですね、この現実は常に不完全だ。だから、真剣に何かし始めると、必ずですね、現実の問題点というものが、この出てくる。どういうかたちで出てくるのかといったらですね、なんかここのところ、もうちょっと便利にならんかな。なんかここのところ、もうちょっと納得できんな。なんかここのところは、おかしいんじゃないかな。ここのところは、なんかもうちょっとぴったりこないなというね、そういうのは、まあ、現実への違和感というんですよね。これは先ほどの問題意識というのと似てるんですけど、だけどちょっと違うので、現実への違和感というのはどういうのかといったらですね、なんかここのところ、ちょっと納得できんな。なんかここのところ、もうちょっと便利にならんかなという現実への違和感というのはいったいなんなのかといったらね、なんかもうちょっと便利にならんかなというのはいったいなんなのかといったら、おまえこそ、まさにそこのところをもうちょっと便利にするためにこの時代に生まれてきたんだ。今、君がそこにおるのは、今すぐそれをやるためなんやっちゅってですね、その歴史や宇宙や天が、自分の使命、今、何をしなきゃならんかっちゅうことをですね、直接的に自分に教えてくれてるという現象なんですよ。**

**なんかちょっと、ぴったりこんなってね。ぴったりこん、ぴったりこないというのをですね、そこのところをぴったりくるようにすることが、君のこの時代に生まれてきた使命、仕事なんだというふうに、こう教えてくれてるっちゅうことですね。だから、ぴったりこんというのを、ぴったりこーんにしてしまうんですね。ぴったりこん、ぴったりこーん。そういうふうなね、感性でね、なんかぴったりこないなというのを、きたきたきたきたといってですね、ぴったりきたという、そういう状態にしてしまうというのが仕事なんですよ。そういう仕事を自分に与えてくれてるという、そういう現象が現実への違和感なんですよ。なんか納得できんな。おまえこそ、まさにそこのところをもうちょっと納得できるものにするために、この時代に生まれてきたんだ。今、君がそこにおる存在理由は、今すぐそれをするためや。今それをすることが君の使命やということをね、自分に教えてくれてる。そういうこの現象なんですよ。現実への違和感。**

**で、最後の第６番目ですね。最後の第６番目は、人生の出会い。出会いというものがね、自分に使命、志、仕事を与えてくれてる。多くの方々がですね、この人と出会ったから、俺はこんな仕事をすることになったんだ。この本を読んだから、自分はこういうことをすることになったんだ。この事件と出合ったから、俺はこういうこの人生になったんだ。そういう出会いというものがね、確実にね、自分の人生を左右します。これは自分がこういう人間になろうと思っとってもね、人生の出会いでその思わざる方向性へとね、自分の人生は振り回されてしまう。こんな女に誰がしたっちゅってですね、こんなのと結婚しちゃったからこうなっちゃったのよって、そういうこの出会いが人生をさまざまにね、揺り動かすということが、しょっちゅうこれはあるわけで。そういう意味で、出会いこそまさにね、自分に使命、自分にその仕事を与えてくれてるという、自分の人生に何かしらこの方向性をつくってくれてるって、そういうこの現象というかね、そういうこのことなんですよ。だから、出会いというものをね、何気なく見過ごしてしまったらいかん。なんらかの出会いというのは、常にですね、自分に仕事を与えてくれてる。何かしら、自分の人生に道筋を教えてくれてる。まあ、そういうふうに出会いというものをね、われわれは考えなければならない。**

**だから、皆さん方が、このアサヒグローバルって会社に勤められたのも、これも人智を超えた、人智を超えた計らいとしてのですね、出会いなんですよ。すなわち、自分でこざかしくあれこれ考えるよりも、人智を超えた計らいによって自分に与えられた、その道を歩むことがね、この最高の人生を自分に与えてくれる。だから、この出会いを最高に生かすんだというね、そういうふうな思いで、この自分が仕事をしていくということも、これも出会いに導かれた素晴らしい人生のあり方なんですね。出会いというのは、この例え自分が選んだとしてもね、偶然に誰かに紹介されたとしてもですね、このアサヒグローバルへ結び付いたっちゅうことは、これはもう人智を超えた計らいというね、そういうこの力が働いてる。人間の意識、人間の命はですね、常にこの宇宙の摂理の力が働いててね、人間のあらゆることを潜在意識で支配してるんですよ。だから、自分で考えてやったんやと思ってもね、それは実は、自分で考えたっちゅうんじゃなくって、命の中に働いてる宇宙の摂理がそのものを選ばせたというね、そういうふうなこともありますのでね、その意味で、この人間の命は常に宇宙の摂理によって支配されておる。**

**寝とっても死なんっちゅうことは、命を生かしてる力は、俺が生かしてるんじゃなくって、命を生かす力は宇宙の力だ。宇宙の摂理の力というのは、命を生かす力だから愛だ。命を生かす力は愛だ。その命からによって、自分の命は生かされて、その宇宙の摂理の力が自分の命の中で働いてくれて、さまざまな判断をこの左右っちゅうか、判断を支配してる。自分が選んだと思っても、それは宇宙の摂理の力で自分で選んだと思っても、それは宇宙の摂理の力で選ばされちゃってるというね、そういうこの可能性があるわけです。そういう意味で、この出会いというのはね、本当にこれは人智を超えた計らいとしてもっともっと大事にせないかん。縁を大事にする。出会いを大事にする。そういうところからですね、この自分に予想もしない素晴らしい人生はね、訪れるということもあるわけであります。**

**まあ、とにかくこの６つのね、この仕方で、われわれはこの自分の命が燃やせる、価値ある人生というものをつかみ取っていくことができる。この６つの中のどれでもいいので、とにかくは、この６つしかないのでですね、この６つの中のどれで自分の人生の道筋を決めるかというね、まあ、そういう、まあ、思案をして、そして、この自分が納得できるね、まあ、そういう道筋をこのつくっていくということをする必要がある。まあ、とにかく命の使いどころを定めんことにはね、自分の人生は始まりません。これやというものをつかんでですね、そして、迷わないで、もうこれに懸けたんやと。もうこれでええんや。もうどんな問題が出てきても、あとはもう出てくる問題をしらみつぶしに乗り越えるだけや。そういうこのどこに命の使いどころを定めるかという、その定め方を決めるために、この６つのですね、自分の、俺の人生の使命、俺の人生の目的というものをこの６つの方法でつかんでもらいたいと。そして、それにもう思いを定めてですね、迷わんと。もうこれでやっていくんやというんでですね、やり始めたら、必ずですね、素晴らしい人生が始まります。**

**まあ、ぜひそういうね、この迷わない人生、悔いのない人生。悔いのない人生というのは迷わない人生なんだ。だから、本当に決断しなければならない。決めたら、そのとき自分が選び取らなかったものは全部捨て切る。捨てる勇気が大事だと。生きるということは、何を取って、何を捨てるかなんだ。同時に２つのことはできない。何を取って、何を捨てるか。それが生きることなんだ。あるものを取ったからには、もう他のものに思いを残したらいかんと。俺にはこれっきゃない。それだけがね、素晴らしい人生の原理ですよ。そのことによって、人間は健康と幸せと成功を手に入れることができる。迷ったら、病気。迷ったら、不幸。迷ったら、失敗。本当に人生は単純なんですよ。だけど、多くの人はそのあいだでこう揺れ動くというかね、迷ったり、決めたり、迷ったり、決めたりで、なかなかこう定まらない。そういう状態で、まあ、いろいろ悩むんですけどね。**

**だけど、最後には迷わない、決めて突っ走るというね、そういうこの感動的な人生ね、不撓不屈の意志を持って、自分の決めた道を歩んでいくね。ぜひそういう感動的な人生というものをね、このアサヒグローバルという会社を舞台にしてつくっていってもらいたいと思うんですね。建築もね、本当にね、もう10年、20年、30年、100年たったら、全然がらっと形がちゃいますからね。もう明治維新のころの建築と今の建築、全然違うでしょう。だから、また100年たったら、また全然違ってくるはずですよ。で、サイエンス・フィクションの中で描かれておるような建築っちゅうのは、まあ、全然、今の建築とはまた違ったかたちをしてますからね。まだまだね、建築業界はものすごい激変がね、これから訪れますよ。まあ、そういう素晴らしい未来を見据えながらね、その中で俺はどういうことをしようかということをね、ぜひ心をうきうき、どきどきさせてね、考えてもらいたいと思います。ということで、今日は終わります。どうもありがとうございました。**